# 高松市内遺跡発掘調査概報

―平成 28年度国庫補助事業―

2017 年 3 月

高松市教育委員会

# 例　言

1　本書は、高松市教育委員会が平成 28 年度（一部、27 年度も含む）に国庫補助事業として実施した高松市内遺跡発掘調査事業の概要報告書である。

2　本書には国庫補助事業のうち、高松市内遺跡発掘調査事業として平成 27 年 12 月から 28 年 11 月にかけて実施した試掘調査及び内容確認調査、平成 28 年度に実施した史跡石清尾山古墳群保存・整備事業と、27 年度に実施した史跡天然記念物屋島基礎調査事業の内容確認調査について収録した。なお、28 年 12 月以降の実施分については、次年度に報告する。

3　調査は、高松市創造都市推進局文化財課文化財専門員　大嶋　和則・渡邊　誠・高上　拓・波多野　篤・舩築　紀子・香川　将慶・梶原　慎司、同非常勤嘱託職員　上原　ふみ・磯崎　福子・森原　奈々・新井場　萌・杉原　賢治が担当した。

4　本書の執筆は大嶋・渡邊・高上・舩築・波多野・香川・梶原・杉原が行い、編集は波多野が担当し、磯崎が補佐した。また、天満・宮西遺跡の銅鐸の記述は、独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所客員研究員の難波洋三氏に依頼し、執筆いただいた。

5　調査の実施にあたっては、下記の方々及び関係諸機関の御指導・御協力を得た。（敬称略・順不同）。
平岡　岩夫、信里　芳紀、乗松　真也、山下　平重、丹羽　佑一、森下　章司、農林水産省四国森林管理局香川森林管理事務所、環境省中国四国地方環境事務所高松事務所、香川県東部林業事務所、香川県栗林公園観光事務所、財務省四国財務局、香川県教育委員会、広瀬　和雄、川部　浩司、亀田　修一、難波洋三、高妻　洋成、水野　敏典、北井　利幸、奥山　誠義、森岡　秀人、濱野　俊一、福永　伸哉、石野　博信、吉田　広、松原　潔、奈良県立橿原考古学研究所、渡部　明夫、進藤　武、（以下、徳島文理大学）大久保　徹也、中嶋　美佳　瀧川　未来　日野　優香　山本　和暉　高瀬　崇宏　次田　裕　松本　就也　松本　恭輝　丸山　孝恭　森　大樹　山崎　徹　植松　弥生　北川　遥子　森本　歩美

6　本書の挿図として、高松市都市計画図２千５百分の1を５千分の1（一部、１万５千分の1と５万分の1）に改変して使用した（調査地位置図内の網かけは、事業対象地を示す）。

7　本書のうち標高値を示したものは海抜高を表し、座標は国土座標Ⅳ系（世界測地系）に拠った。

8　天満・宮西遺跡出土の銅鐸について、奈良県立橿原考古学研究所に依頼して三次元計測・X線写真の撮影を実施した（計測は科学研究費で実施）。また、成分分析等を、難波洋三氏に依頼して実施した。

9　発掘調査で得られたすべての資料は高松市教育委員会で保管している。

# 目　次


**第１章　高松市内遺跡発掘調査事業（平成 27 年 12 月～ 28 年 11 月）……1**

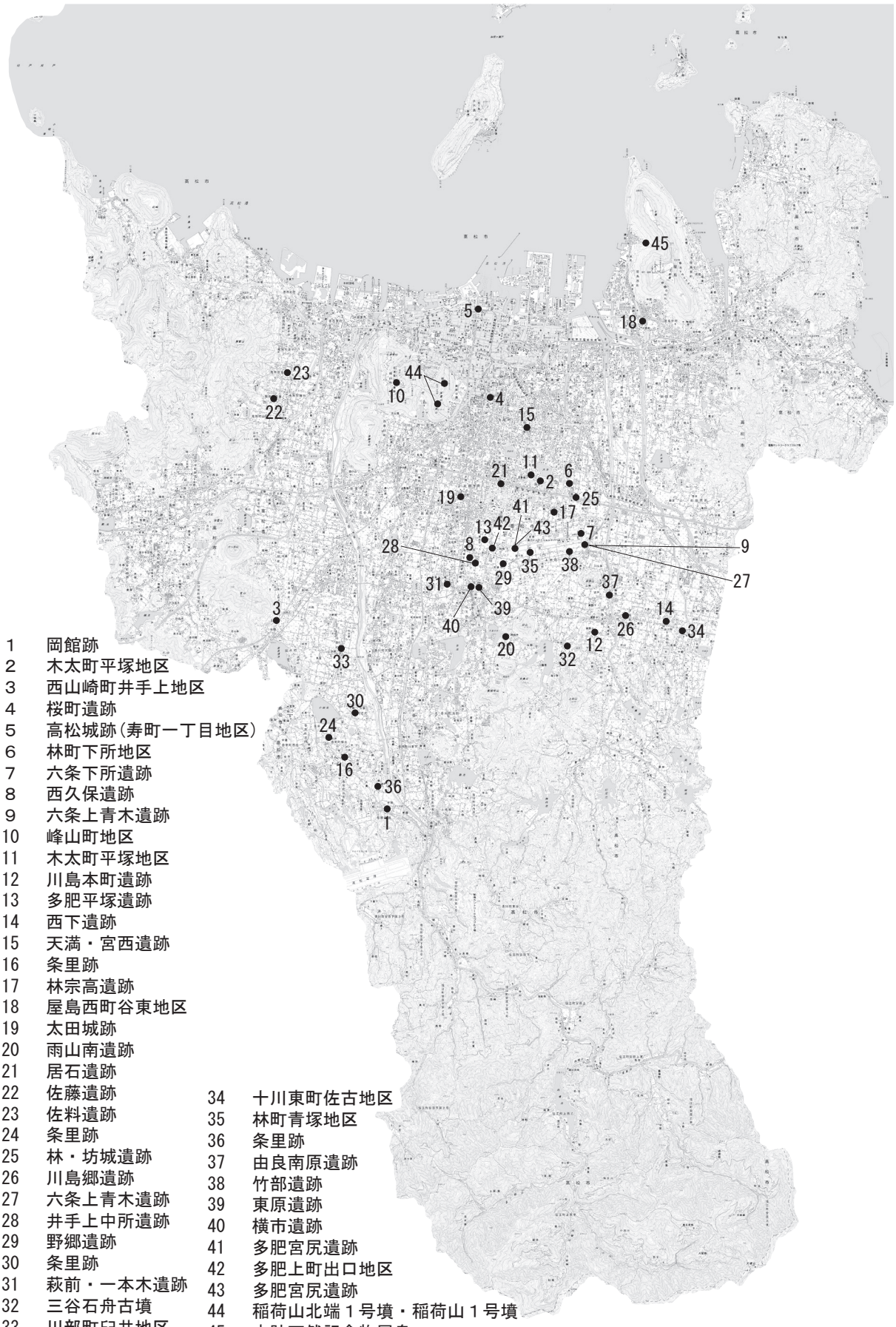
1 岡館跡……1
2 木太町平塚地区……2
3 西山崎町井手上地区……2
4 桜町遺跡……3
5 高松城跡（寿町一丁目地区）……4
6 林町下所地区……4
7 六条下所遺跡……5
8 西久保遺跡……6
9 六条上青木遺跡……8
10 峰山町地区……9
11 木太町平塚地区……9
12 川島本町遺跡……10
13 多肥平塚遺跡……10
14 西下遺跡……11
15 天満・宮西遺跡……12
16 条里跡……17
17 林宗高遺跡……18
18 屋島西町谷東地区……18
19 太田城跡……19
20 雨山南遺跡……19
21 居石遺跡……20
22 佐藤遺跡……21
23 佐料遺跡……23
24 条里跡……24
25 林・坊城遺跡……24
26 川島郷遺跡……25
27 六条上青木遺跡……26
28 井手上中所遺跡……27
29 野郷遺跡……29
30 条里跡……31
31 萩前・一本木遺跡……32
32 三谷石舟古墳……33
33 川部町臼井地区……34
34 十川東町佐古地区……35
35 林町青塚地区……35
36 条里跡……36
37 由良南原遺跡……36
38 竹部遺跡……37
39 東原遺跡……38
40 横市遺跡……39
41 多肥宮尻遺跡……40
42 多肥上町出口地区……41
43 多肥宮尻遺跡……42

**第２章　史跡石清尾山古墳群保存・整備事業（平成 28 年度）……44**

44 稲荷山北端１号墳・稲荷山１号墳……44

**第３章　史跡天然記念物屋島基礎調査事業（平成 27 年度）……46**

45 史跡天然記念物屋島……46




1　岡館跡
2　木太町平塚地区
3　西山崎町井手上地区
4　桜町遺跡
5　高松城跡（寿町一丁目地区）
6　林町下所地区
7　六条下所遺跡
8　西久保遺跡
9　六条上青木遺跡
10　峰山町地区
11　木太町平塚地区
12　川島本町遺跡
13　多肥平塚遺跡
14　西下遺跡
15　天満・宮西遺跡
16　条里跡
17　林宗高遺跡
18　屋島西町谷東地区
19　太田城跡
20　雨山南遺跡
21　居石遺跡
22　佐藤遺跡
23　佐料遺跡
24　条里跡
25　林・坊城遺跡
26　川島郷遺跡
27　六条上青木遺跡
28　井手上中所遺跡
29　野郷遺跡
30　条里跡
31　萩前・一本木遺跡
32　三谷石舟古墳
33　川部町臼井地区
34　十川東町佐古地区
35　林町青塚地区
36　条里跡
37　由良南原遺跡
38　竹部遺跡
39　東原遺跡
40　横市遺跡
41　多肥宮尻遺跡
42　多肥上町出口地区
43　多肥宮尻遺跡
44　稲荷山北端１号墳・稲荷山１号墳
45　史跡天然記念物屋島

第１図　調査地位置図

# 第1章　高松市内遺跡発掘調査事業(平成27年12月～28年11月)

## 1　岡館跡（おかやかたあと）

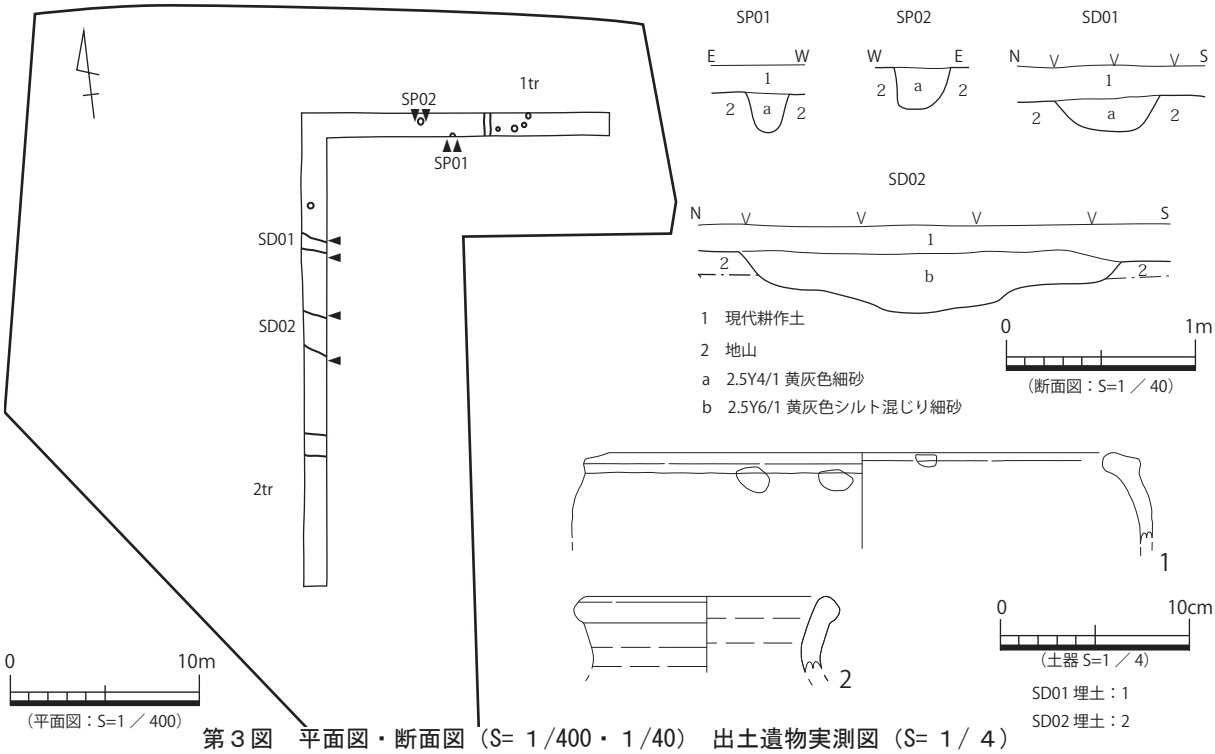
**1 所　在　地** 高松市香南町岡
**2 調 査 期 間** 平成27年12月2日
**3 調査担当者** 波多野　篤
**4 調査の原因** 太陽光発電パネル設置工事
**5 調査の概要**

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「岡館跡」内に位置する。２本のトレンチを設定して確認調査を実施した。層序は大別２層で、上から順に現代耕作土、灰黄色シルト混じり細砂及びにぶい黄色シルト混じり細砂等（地山）である。遺構は､地山上面で検出した。１トレンチでは､ピット６基､溝１条を検出した。２トレンチでは､ピット１条､溝３条を検出した。SD01は幅約0.58ｍ、深さは約0.2ｍで、中世後半の土師質土器などが出土した（１）。SD02は幅約2.0ｍ､深さ約0.4ｍで、比較的規模の大きい溝と言える。中世後半の土師質土器や陶器片が出土した（２）。

第２図　調査地位置図（S= １/5000）

**6 ま と め**

今回の調査では、事業地内でピットや溝などを複数確認した。調査状況から、事業地内に遺構は良好な状態で遺存すると考えられる。一部の遺構からは、中世後半と考えられる遺物が出土した。調査で検出した遺構の埋土は概ね類似することから、中世後半に帰属する一連の遺構群と考えられ、岡館跡に伴う遺構である可能性が考えられる。なお、調査結果を受けて、一部設計が見直され、大半の部分で保護層が確保できた。それ以外の狭小な掘削箇所は、工事立会で保護措置を図った。(波多野)



第３図　平面図・断面図（S= １/400・１/40）　出土遺物実測図（S= １/ ４）

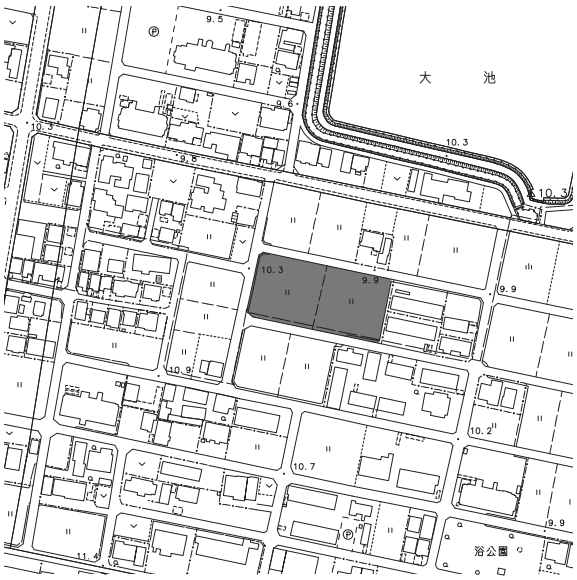
## 2　木太町平塚地区（きたちょうひらつかちく）

1 所　在　地　高松市木太町
2 調 査 期 間　平成27年12月7・8日
3 調査担当者　波多野　篤・新井場　萌
4 調査の原因　老人福祉施設兼保育園建設工事
5 調査の概要

対象地は弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地の参考地であり、埋蔵文化財が包蔵されることが予想されたことから、事業者から任意で試掘調査の依頼があり、調査を実施することとなった。事業地内に９本のトレンチを設定して調査した。その結果、多くの部分で後世の撹乱により地山面は失われていることを確認し、地山が遺存する箇所でも遺構は認められなかった。

6 まとめ

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(波多野)



第４図　調査地位置図（S= １/5000）

## 3　西山崎町井手上地区（にしやまさきちょういでうえちく）

1 所　在　地　高松市西山崎町
2 調 査 期 間　平成27年12月26日
3 調査担当者　高上　拓
4 調査の原因　市道改良工事
5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、周知の埋蔵文化財包蔵地「本尭寺１号墳」に近接することから、事業者の協力のもと、試掘調査を行った。

調査対象地は本尭寺から東へ降る緩やかな山腹にあたり、田畑のために階段状に整形されている。調査にあたっては５箇所の調査区を設定した。甘土直下がすぐに地山層であり、いずれも遺構・遺物ともに確認できなかった。

6 ま と め

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）

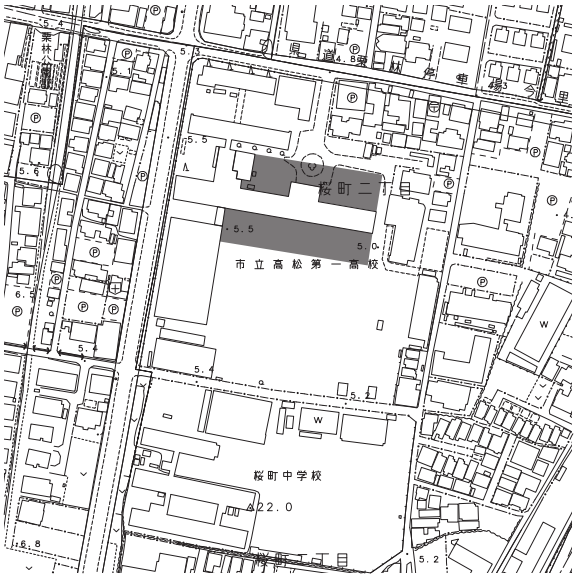
第５図　調査地位置図（S= １/5000）

# 4　桜町遺跡（さくらまちいせき）

1 所　在　地　高松市桜町二丁目
2 調 査 期 間　平成 27 年 12 月 21 日～ 12 月 28 日
　　平成 28 年 10 月 22 日
3 調査担当者　船築　紀子・磯崎　福子
4 調査の原因　学校改築工事
5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「東中筋遺跡」に隣接する。学校改築工事が計画されたため、13 本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。

基本層序は、花崗土の下にⅠ層：黒色粘土、Ⅱ層：黒褐色シルト～粘土、Ⅲ層：黒褐色シルト、Ⅳ層：黒褐色細砂混じりシルト・暗灰黄色細砂～シルトである。Ⅳ層は当地の基層をなす自然堆積層（地山）と考えられる。遺構はⅣ層上面で検出した。遺構は１・７トレンチで土坑を各１基、３トレンチで溝を１条検出した。また１～３・５トレンチでは、江戸時代の河川が確認できた。



第６図　調査地位置図（S= １/5000）

6　まとめ

事業地の南西側を中心に遺構を確認した。出土遺物は近世の遺物を除くと、事業地北側の 10 トレンチで弥生土器片が出土したのみである。遺構の時期は、隣接する東中筋遺跡の調査成果から考えると、弥生時代に帰属すると考えられる。

当該地は、周辺地形やボーリング調査の結果から推定すると、東中筋遺跡が展開する微高地から御坊川へと下降する谷状の地形に位置していると考えられる。このことから、今回の事業地の南西側に集落が広がるものと推定できる。

なお、試掘調査後に、事業地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「桜町遺跡」に追加され、その範囲内での土木工事等が実施される際には、保護措置が必要である。（船築）

写真１　１トレンチ 遺構検出状況（南東から）

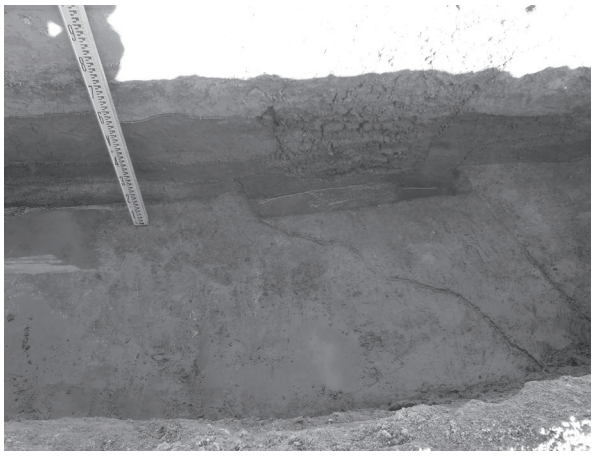


写真２　３トレンチ 遺構検出状況（南から）

## 5　高松城跡（寿町一丁目地区）

たかまつじょうあと　ことぶきちょう１ちょうめちく

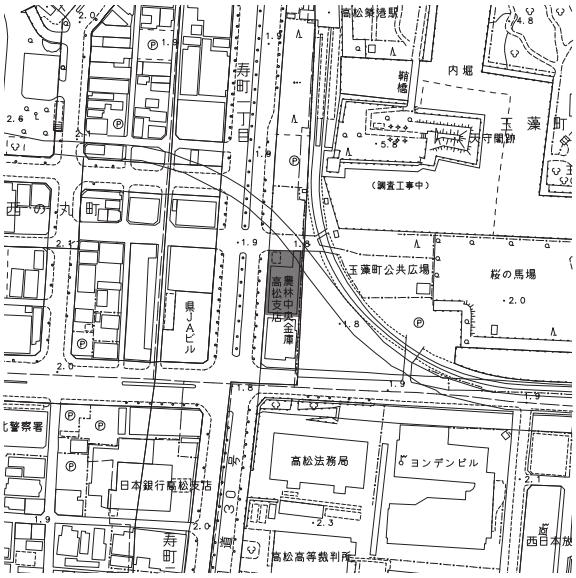
**1 所　在　地**　高松市寿町一丁目
**2 調 査 期 間**　平成 28 年1月6日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　事務所ビル解体工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者の了解を得て試掘調査を実施した。

既存ビルの基礎に伴う攪乱で、モザイク状に遺構面が残存する状況を確認した。確認深度は標高0.6ｍ以下である。また、中世以前に遡る遺物包含層が遺構面を形成していることを確認した。

**6 まとめ**

対象地は新規の埋蔵文化財包蔵地「高松城跡（寿町一丁目地区）」として登録された。開発事業に伴い、平成 28 年２月に発掘調査を実施した。28 年度末に報告書を刊行する予定である。（高上）




第７図　調査地位置図（S= １/5000）

## 6　林町下所地区

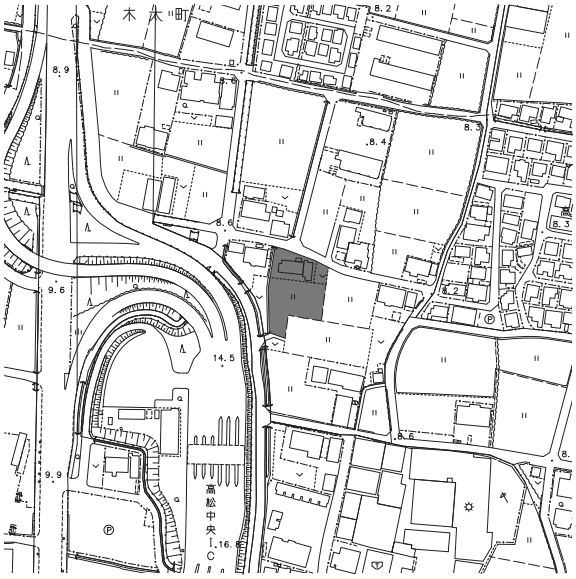
はやしちょうげしょちく

**1 所　在　地**　高松市林町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年１月７日
**3 調査担当者**　波多野　篤
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

対象地は林下所遺跡に隣接する。事業者から任意で試掘調査の依頼が提出され、調査を実施した。事業地の層序は、現代耕作土の直下で明黄褐色粘土混じりシルトの地山となる。事業地内に２本のトレンチを設定して調査したが、いずれのトレンチでも地山上面で遺構・遺物は認められなかった。

**6 まとめ**

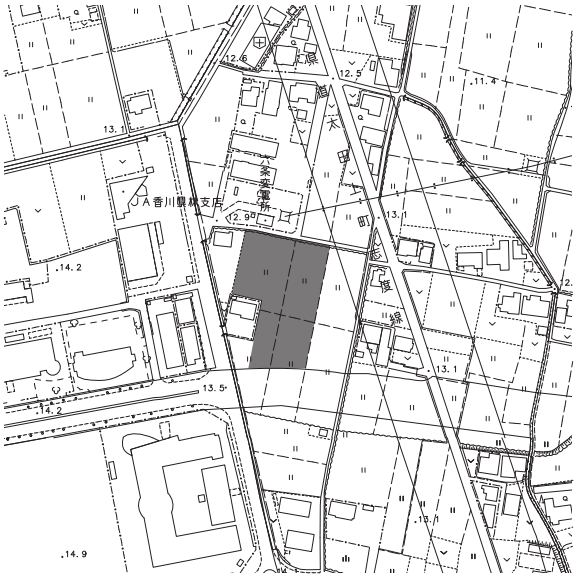
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（波多野）




第８図　調査地位置図（S= １/5000）

# 7　六条下所遺跡（ろくじょうげしょいせき）

1 所　在　地　高松市六条町
2 調 査 期 間　平成 28 年１月 20 日～１月 22 日
　　平成 28 年６月 27 日～７月２日
3 調査担当者　舩築　紀子・森原　奈々
4 調査の原因　給食センター建設事業
5 調査の概要



第９図　調査地位置図（S= １/5000）

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「六条下所遺跡」に隣接する。給食センター建設工事が計画されたため、11 本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。

基本層序は、耕作土の直下がにぶい黄褐色中粒砂混じりシルト～粘土の地山面となる。

遺構は６トレンチを除くすべてのトレンチで確認した。確認した遺構は流路と溝、土坑、ピット、落ち込みである。このうち流路は、埋土が黒褐色シルト～粘土の堆積で、弥生土器片が出土した。流路は、今回の事業対象地の南側で、香川県埋蔵文化財センターが実施した調査の際に確認されている弥生時代前期と後期の自然流路の続きと考えられる。また、埋土が灰色シルト混じり微細砂～中粒砂の溝やピットも確認でき、埋土の観察から、中世の遺構と考えられる。

6　まとめ

事業地内で流路や溝、土坑、ピットなど、複数の遺構を確認した。遺構の時期は、埋土の観察や出土遺物から、弥生時代と中世に属するものと考えられる。

当該地は周辺地形から推定すると、空港跡地遺跡が展開する微高地の縁辺部であり、この遺跡が当該地まで広がっている可能性がある。

なお、試掘調査の結果、事業地は「六条下所遺跡」の範囲に追加された。土木工事等が実施される際には、保護措置が必要である。（舩築）

写真３　２トレンチ 遺構検出状況（東から）

写真４　２トレンチ 遺物出土状況（南から）

# 8　西久保遺跡（にしくぼいせき）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町・出作町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年1月 13 日～1月 16 日
**3 調査担当者**　波多野　篤・上原　ふみ
**4 調査の原因**　分譲住宅造成工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者の依頼に基づき、対象地全域に合計 29 本の調査区を設けて試掘調査を実施した。調査地の層序は、Ⅰ層は現代耕作土・床土、Ⅱ層は灰黄色細砂混じりシルト（近世以降の耕作関連の土層）、Ⅲ層は灰黄色細砂混じりシルト及び灰色砂礫（地山）である。このうち、Ⅲ層は上位に黄灰色細砂混じりシルト、下位に灰色砂礫の順に堆積し、地点によって地表に露出する細別層が異なる。遺構検出はⅢ層上面で行った。なお、現況の地形も考慮し、24 トレンチ西側の境界を基準として西側地区と東側地区に分けて報告する。

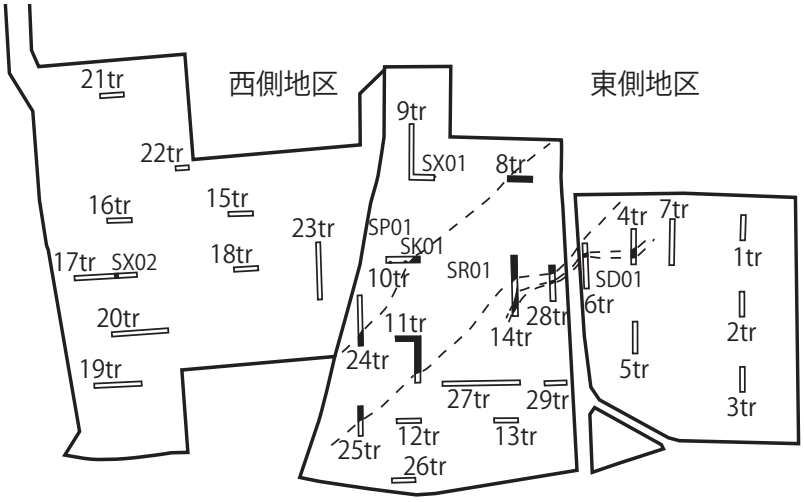
第 10 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**西側地区**　遺構面の起伏が著しい。隣り合うトレンチでも 10 ㎝以上の高低差が認められる。17 トレンチで不正形な落ち込み（SX02）を検出したが、須恵器片など若干の遺物が含まれるものの、形状が不整形であること、周辺で人為的な痕跡が皆無であることから自然地形の窪みと判断した。

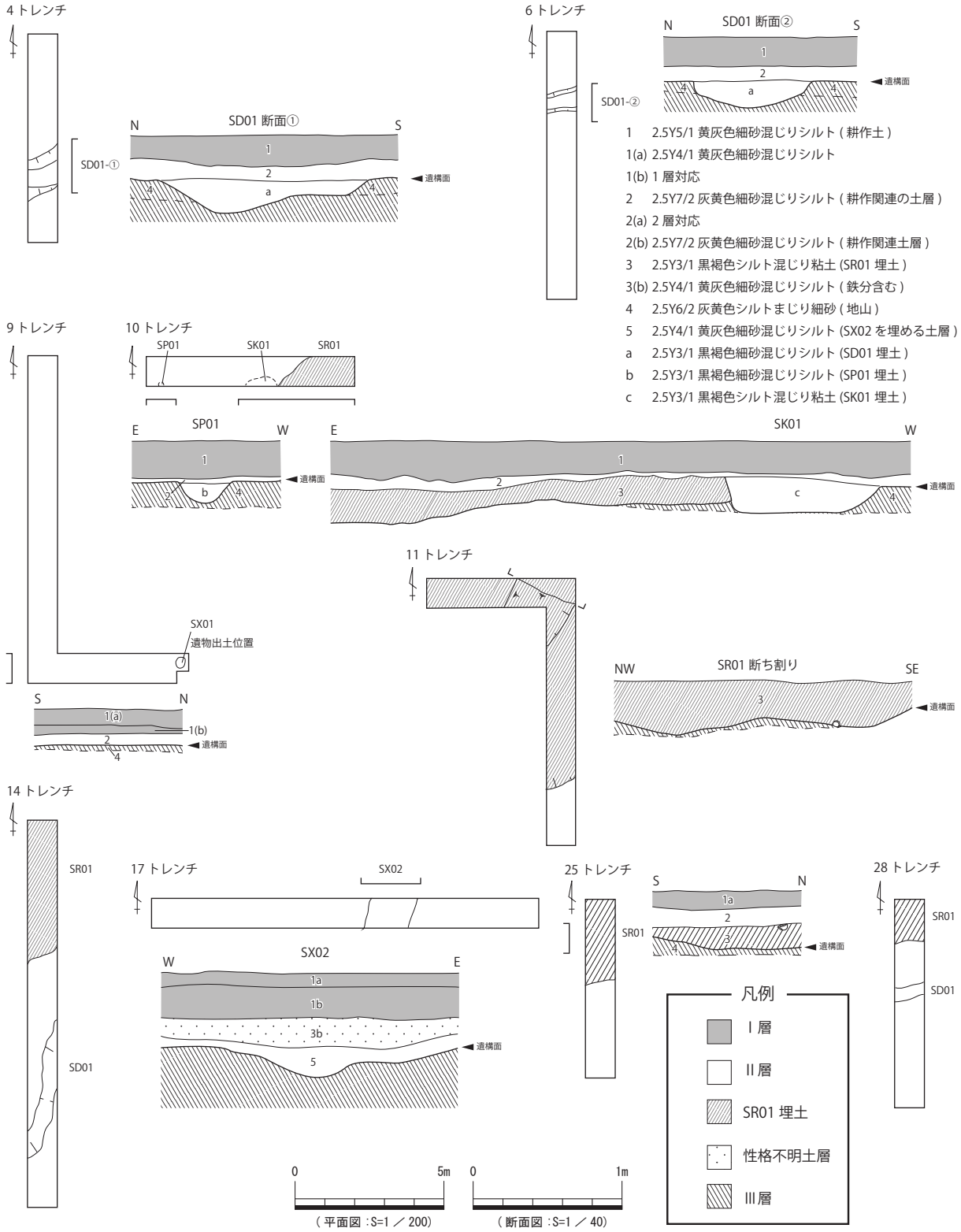
**東側地区**　検出した遺構等は、土坑１基（SK01）、ピット１基（SP01）、溝１条（SD01）、性格不明遺構１基（SX01）、自然流路１条（SR01）である。

SR01 は、南西から北東方向で確認した。SR01 の幅は約 15 ｍで、黒褐色シルト混じり粘土を埋土とする。SR01 の埋土からは、土器小片がわずかに出土した。SR01 に沿うように、幅約 0.6 ｍ、深さ約 0.2 ｍの SD01 が南西から北東方向に認められた。SK01 は、SR01 北岸付近に位置し、SR01 の埋土を基盤として掘削される。SK01 の深さは約 0.3 ｍで、埋土に若干の炭化物を含む。SX01 は９トレンチで検出した。土器が横位の状態で複数並べられたもので、掘り形は明瞭に認

写真５　SX01 検出状況（南から）



第 11 図　トレンチ配置図

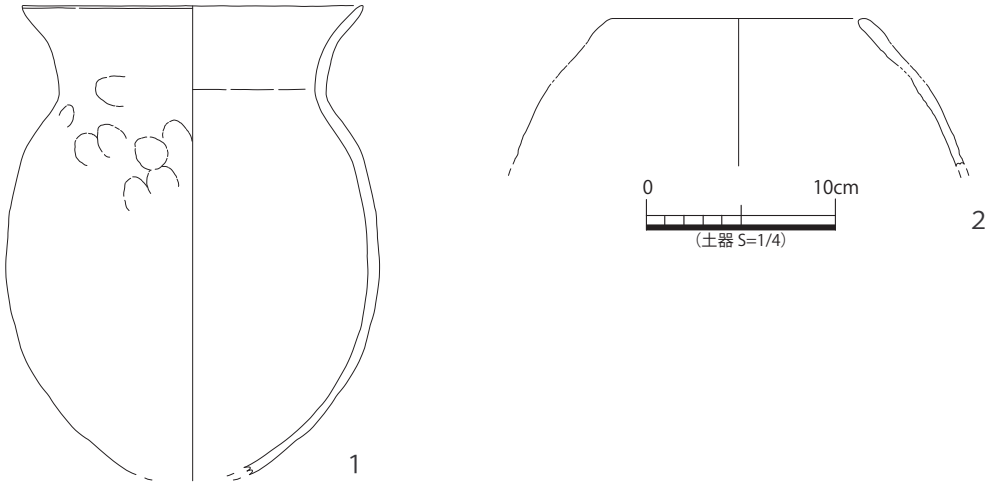



第 12 図　平面図・断面図（S= 1 /400・ 1 /40）

められなかった。なお、SX01 から出土したのは土師器甕等で、古墳時代後期に帰属する（1・2）。

## 6 まとめ

事業地の一部で古墳時代後期と考えられる遺構・遺物を確認したことから、調査後に「西久保遺跡」として新規に遺跡台帳に登録された。その後、一部の工事計画が見直され、保護層の確保ができなかった箇所のみ工事立会を行い、保護措置を図った。（波多野）




第 13 図　出土遺物実測図（S= 1 / 4）

## 9　六条上青木遺跡（ろくじょうかみあおきいせき）

**1 所　在　地**　高松市六条町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年1月 18 日～1月 20 日
**3 調査担当者**　舩築　紀子・磯崎　福子
**4 調査の原因**　保育所建設事業
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「六条下所遺跡」に隣接する。保育所建設工事が計画されたため、15 本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。基本層序は、耕作土の直下が明黄褐色シルト～粘土の地山面となる。

遺構は 10・14 トレンチを除く各トレンチで溝、土坑、ピットを確認した。このうち溝と土坑では、埋土が黒褐色細砂混じりシルトのものと、黄灰色細砂～シルトのものを確認し、埋土の観察から、黒褐色のものが古墳時代、黄灰色のものが中世の遺構と考えられる。遺物は須恵器片と土師器片が出土した。

第 14 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

写真６　３トレンチ 遺構検出状況（南西から）

写真７　４トレンチ 遺構検出状況（南から）

6 まとめ

事業地内で溝や土坑、ピットなど、複数の遺構を確認した。遺構の時期は、埋土の観察や出土遺物から、古墳時代と中世に属するものと考えられる。

当該地は周辺の地形から推定すると、空港跡地遺跡が展開する微高地の縁辺部であり、この遺跡が当該地まで広がっている可能性がある。なお、試掘調査の結果、事業地は「六条上青木遺跡」として新規に遺跡台帳に登録された。また、発掘調査を実施し、平成 28 年度に高松市埋蔵文化財報告第 174 集として刊行した。(船築)

## 10　峰山町地区

1 所　在　地　高松市峰山町
2 調 査 期 間　平成 28 年1月 26 日、2月3・4日
3 調査担当者　波多野　篤
4 調査の原因　不動産売買
5 調査の概要

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「摺鉢谷遺跡」に隣接する。試掘調査依頼が事業者から提出されたため、３本のトレンチを設けて試掘調査を行った。

調査の結果、近代以降に大部分の箇所で谷を大規模に埋め立て、複数の平坦面を形成していることが判明した。また、一部の調査区で地山を確認したものの、遺構は認められなかった。

6 まとめ

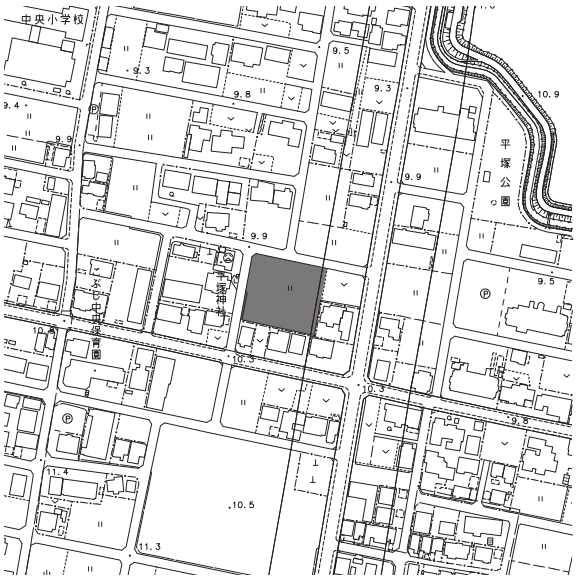
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。(波多野)

第 15 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

## 11　木太町平塚地区（きたちょうひらつかちく）

1 所　在　地　高松市木太町
2 調 査 期 間　平成 28 年2月8日
3 調査担当者　大嶋　和則
4 調査の原因　共同住宅建設工事
5 調査の概要

対象地は弘福寺領讃岐国山田郡田図比定地の参考地であり、事業者からの依頼を受け、確認調査を実施した。調査では事業地中央部に東西方向に連続して２本のトレンチを設定した。いずれのトレンチにおいても耕作土、床土、土地区画整理事業の造成土が認められ、現地表面下約 50 ～ 60 ㎝で地山と考えられる黄色粘土層が認められた。東側トレンチの東端において幅 7.5 m以上、深さ約２mの旧河道状の落ち込みを検出したが、遺物は出土していない。



第 16 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

6 まとめ

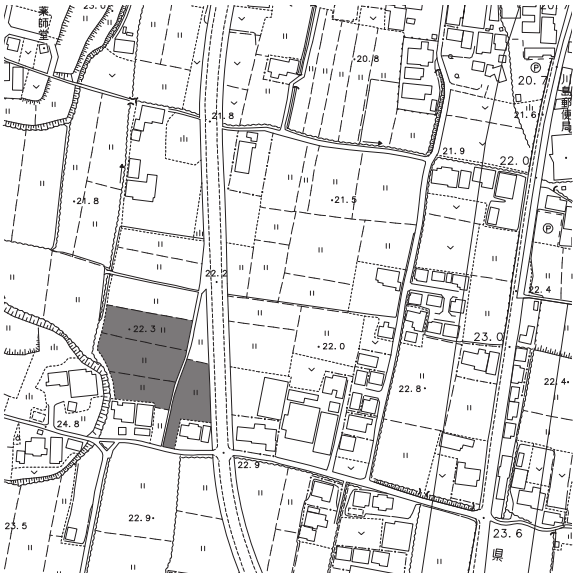
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。( 大嶋 )

## 12　川島本町遺跡（かわしまほんまちいせき）

**1 所　在　地**　高松市川島本町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年2月 15 日～2月 17 日
**3 調査担当者**　波多野　篤・船築　紀子
**4 調査の原因**　葬祭場建設工事
**5 調査の概要**

対象地は、周知の埋蔵文化財包蔵地「川島本町遺跡」の西側に隣接する。事業者からの依頼に基づき試掘調査を実施した。

耕作土直下で遺構検出を行い、溝、ピット、土坑、性格不明遺構などの遺構を検出した。これらの遺構の埋土は、灰色を呈するもの、黒褐色を呈するもの、黒色を呈するものなど複数に分かれる。各トレンチからは縄文時代から中世にかけての遺物が出土した。



第 17 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

事業地の全域で遺構・遺物が認められた。これらの遺構は、隣接する川島本町遺跡で確認されている遺構と一連のものと考えられる。以上の結果から、事業地全域が「川島本町遺跡」の範囲に追加された。その後、工事に伴い発掘・立会調査を実施し、保護措置を図った。平成 29 年度に報告書を刊行する予定である。（波多野）

## 13　多肥平塚遺跡（たひ ひらつかいせき）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年3月 22 日～3月 24 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　市道改良工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥平塚遺跡」に隣接する。事業者からの協力を受け、試掘調査を実施した。調査では７本のトレンチを設定した。

調査対象地北半では床土下で暗褐礫混じり細砂層を主体とした遺構面を検出した。検出した遺構は溝１条、ピットの可能性のある円形の落ち込み２基であり、遺構密度は非常に希薄である。埋土の特徴と被覆土中遺物から、遺構の埋没は中世以前である。

第 18 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

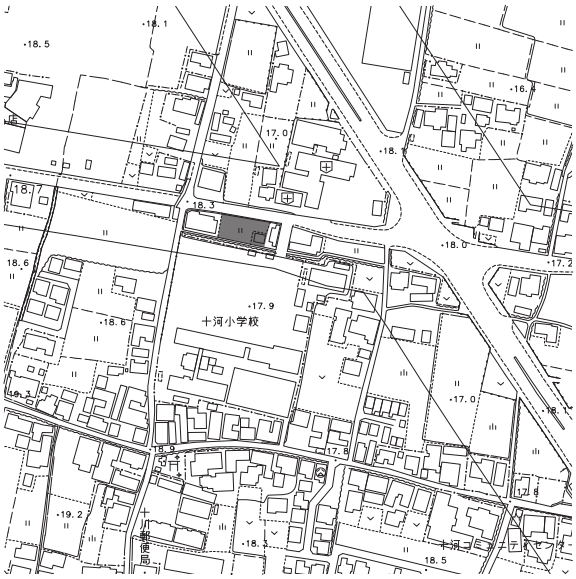
事業地は多肥平塚遺跡の範囲に追加された。平成 28 年度に開発に伴う発掘調査を実施し、同年度末に報告書刊行予定である。（ 高上 ）

# 14　西下遺跡（にししたいせき）

**1 所　在　地**　高松市十川西町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年3月 21 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　小学校運動場整備工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「西下遺跡」に近接する。事業者の任意の協力のもと、試掘調査を行った。

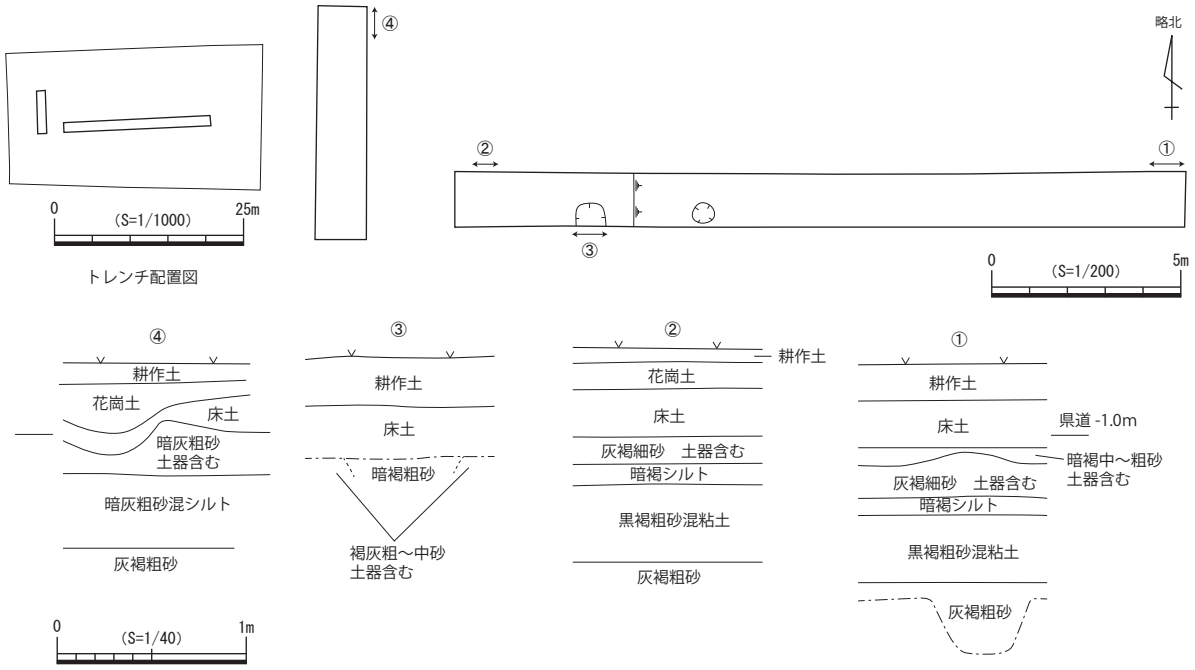
現地表面下 50 ㎝程度の深度で須恵器・土師器を比較的稠密に含む灰褐色を基調とした遺物包含層が厚さ 10 ㎝程度で対象地全域に広がっている。須恵器の主体は TK209 型式併行である。また、東西トレンチの中央では、この遺物包含層を掘り込む土坑らしき不明遺構（SX1）を確認した。遺物包含層の下層には黒色の粘性の高い粗砂混じりシルト、灰色粗砂が堆積している。この層中より遺物を確認することはできていないが、湿地性の堆積を示しており、調査中も湧水が著しかった。規模の大きな旧河道跡や後背湿地の可能性が推測できる。




第 19 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

埋蔵文化財の包蔵状況を確認したため、事業地は「西下遺跡」の範囲に追加された。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。（高上）



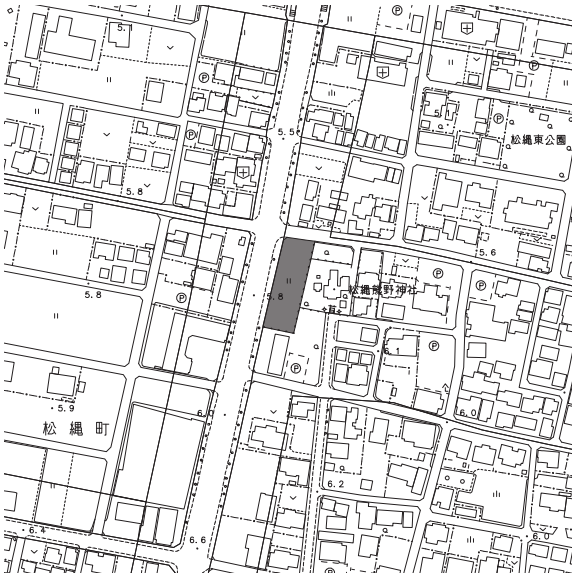

第 20 図　平面図・断面図（S= 1 /200・ 1 /40）

# 15　天満・宮西遺跡（てんま・みやにしいせき）

**1 所　在　地**　高松市松縄町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年３月 23 日
**3 調査担当者**　波多野　篤・森原　奈々
**4 調査の原因**　事務所建設工事
**5 調査の概要**

**（１）はじめに**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「天満・宮西遺跡」の東側に隣接する。事業者からの依頼に基づき、工事着手前に合計４本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。



第 21 図　調査地位置図（S= １/5000）

**（２）調査成果**

基本層序は大別して３層に分かれる。Ⅰ層は現代耕作土及び現代造成土、Ⅱ層は黄灰色粘土混じりシルト、Ⅲ層は黄灰色砂礫である。このうち、Ⅱ層は、調査地中央から南側にかけて部分的に堆積する土層で、若干の遺物を含む。Ⅲ層は、層相から河川堆積を起源とする自然堆積層（地山）と考えられる。遺構は、Ⅲ層上面で検出した。

**１トレンチ**　２条の溝（溝１・２）を検出した。溝１は幅約 1.5 m、深さ約 0.3 m、溝２は幅約 1.4 m、深さ約 0.3 mである。双方の溝は、他のトレンチで検出した溝とは土色・土質が明瞭に異なる。溝１・２は、周辺から中世の土器片が出土しており、中世に帰属する遺構の可能性が考えられる。

**２トレンチ**　溝を３条（溝３～５）、流路を２条（流路１・２）検出した。２トレンチで検出した溝は、いずれも埋土が黒色系統の土層である。溝３は幅約 1.7 m、深さ約 0.2 m、溝４は幅約 1.5 m、深さ約 0.2 m、溝５は幅約 1.6 mである。流路２は、西隣の発掘調査成果を考慮して自然流路と評価した。幅約 8.0 mで、埋土は単層で粘性は強い。流路２底部直上から銅鐸片が出土した。なお、銅鐸片に伴う掘り込みは認められず、埋納された状態ではないと判断できる。これらの溝・流路は、隣接地の調査成果等から、弥生時代後期に帰属する遺構等と考えられる。

**３トレンチ**　流路１の西岸を検出した。２トレンチで検出した流路１の東岸の位置から、流路１の幅は約 6.5 mであることが分かる。なお、流路１の中心付近を一部掘削したが、底部までの深さは 0.2 ～ 0.3 mであった。

**４トレンチ**　溝を１条（溝５）、性格不明遺構を１基検出した。（波多野）

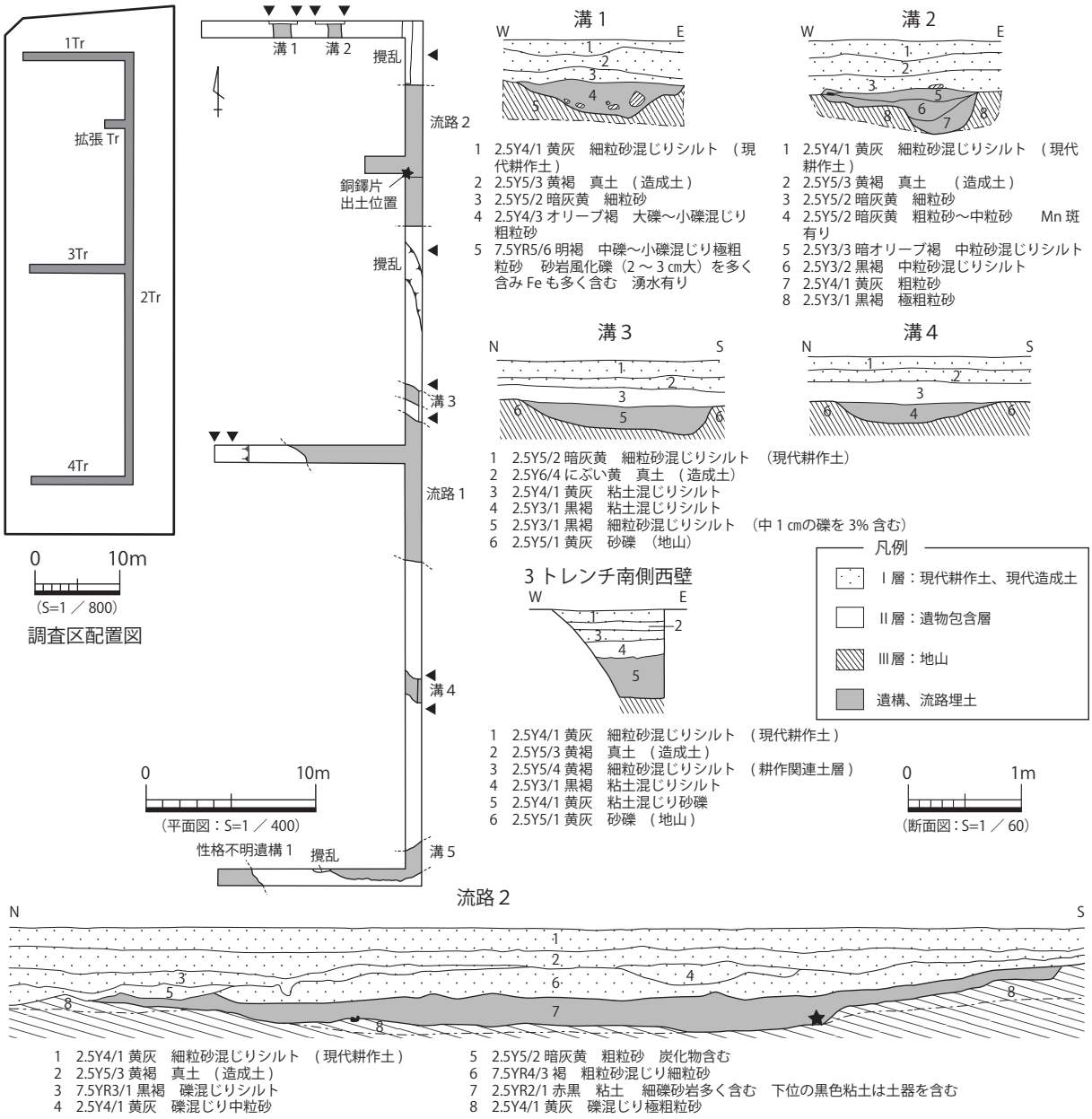
**（３）出土遺物**

今回の調査で出土したのは、弥生土器片・銅鐸片、中世の土器片である。このうち、図化できた遺物は銅鐸片のみである。以下に、銅鐸について難波氏の玉稿を掲載する。（波多野）

**ａ　型式的位置付け**

高さ約 49.5 ㎝、幅約 34.5 ㎝、重量 4.1 ㎏の近畿式銅鐸の身の破片で、下区下半から下縁にかけて、そして、ほぼ中縦帯から右縦帯の区画界線付近にあたる。現状では接合する大小２片となっているが、接合面が新鮮で銹化していないので、本来は一体であったものが表土掘削時に作業機械にひっかけられて破損したことが分かる。なお、小片の接合しない側の長辺の破面も新鮮なので、さらに接合する部分があったと考えられる。

第４横帯と中縦帯はそれぞれ３条の軸突線を有する。近畿式銅鐸の横帯が軸突線を有するようになるのは、突線鈕４式以後である。また、第４横帯と中縦帯の区画突線はすべて３条であるが、突線鈕４式や５Ⅰ式にはこの特徴がない。よって、この破片は突線鈕５Ⅱ式の一部である。すなわち、近畿式銅鐸でも最終段階に属する。




第 22 図 平面図・断面図（S= 1 /800・ 1 /400・ 1 /60）

写真８ 流路 2 断面（北西から）

写真９ 流路 2 銅鐸片 出土状況（北東から）

縦横帯及び突線は、互いに切りあっている。突線は、下辺横帯の下界線が最も太く、次いで中縦帯と第４横帯の軸突線及び右縦帯の区画突線、そして中縦帯と第４横帯の区画突線の順に細くなる。突線鈕５Ⅱ式には下辺横帯に細長い鋸歯文ｌＲかＬｒを飾る例が多く、鋸歯文Ｒを飾る例も少数ある。本例の下辺横帯の鋸歯文は、半鋸歯文を除きｌＲである。突線鈕５Ⅱ式の下辺横帯の下界線は４条か５条だが、本例は４条である。他の近畿式銅鐸と同じく、鋳造後に区画内や裾は研磨していないようである。内面突帯は退化して非常に細くなっており、身の下縁から上 19.0 ㎝に下辺があり、幅は 1.0 ㎝である。身の厚さはほぼ４㎜である。破片が全体に赤褐色を帯びているのは、土中の鉄やマンガンが埋蔵中に付着したためであろう。

**ｂ 絵画**

この破片で特に注目されるのは、裾に鹿あるいは鳥の絵画を鋳出していることである。銅鐸絵画が盛行するのは外縁付鈕２式までで、扁平鈕式古段階以後は絵画を鋳出す例が激減する。ただし、例外的に扁平鈕式新段階の桜ケ丘４・５号鐸型は多種かつ多数の絵画を鋳出しているが、これはこの銅鐸群が古い銅鐸を手本として作られた復古調の銅鐸であることと関係している。

近畿式銅鐸で絵画を鋳出した例は、これまで 1881 年に滋賀県野洲市大岩山で出土した 14 個の銅鐸のうちの１個、突線鈕３Ｉｂ式の２号鐸しかなかった。この銅鐸は、片面の裾に鳥を２羽鋳出している。一方、近畿式銅鐸と製作時期が重複する三遠式銅鐸には近畿式銅鐸よりも絵画を鋳出した例が多くあり、三遠２式の静岡県小野鐸（片面の下左区に鳥３羽、下右区に鳥２羽）、三遠３式の静岡県木船１号鐸（片面の下左区に鳥１羽）と静岡県敷地１号鐸（片面の下右区に鳥２羽）と静岡県悪ヶ谷鐸（片面の下左区に鹿１頭、下右区に鳥２羽）、以上の計４個が三遠式の絵画銅鐸である。これらは近畿式銅鐸の突線鈕３式と同じ頃に作られたものなので、突線鈕５Ⅱ式の本例が最も新しい絵画銅鐸となる。なお、近畿式銅鐸は絵画を裾に鋳出すのに対し、三遠式銅鐸は絵画を下区の中に鋳出している。

近畿式銅鐸は、祭器としての性格や用途がそれ以前の銅鐸とは大きく異なるとする有力な説がある。しかし、本例の発見によって近畿式銅鐸の最新型式に鳥あるいは鹿の絵画を鋳出した例があることが判明したことで、近畿式よりも古い型式の銅鐸が有した祭器としての性格の重要な部分が、近畿式銅鐸の最終段階まで受け継がれて残っていた可能性が高くなった。最終段階の銅鐸の用途や祭祀を検討する上で、今後、この銅鐸の絵画は重要な資料となるであろう。

**ｃ 破壊された銅鐸**

銅鐸には、本例のように破片となった状態で出土するものがある。そのほとんどは近畿式銅鐸で、計 37 遺跡で発見されており、多くは故意に破壊されたものの一部と考えられる。ただし、本例のような近畿式銅鐸の大破片は、静岡県浜松市松東遺跡３次調査で出土した高さ 17.8 ㎝、幅 25.2 ㎝、重量 1.178 ｋｇの鈕の破片を除き、例がない。

三重県を除く東海地方出土の近畿式銅鐸の破片の６割以上が双頭渦文飾耳の破片なので、この地域では特定の部位を選択して廃棄したことが分かる。一方、近畿以西の地域では、身の破片が多い。その中でも鋳造関係遺物とともに複数個の近畿式銅鐸の破片が出土した奈良県桜井市大福遺跡や同市脇本遺跡の場合は、破片を他の青銅器の原料としていた可能性が高い。ただし、原料金属が未使用のまま残ることは稀であるにもかかわらず、近畿式銅鐸の破片の出土例は相当数にのぼるので、その多くは東海地方の事例について推定したように、意図的に廃棄されたものであろう。

前記のように今回出土した破片は重量が 4.1 ㎏で、通常の全高 42 ㎝ほどの扁平鈕式新段階の六区袈裟襷文銅鐸１個よりも重く、熔かせば銅鏃を約 1000 本製作できる。また、中国漢代においては、青銅１㎏の価格はおよそ籾 150 ℓに相当するので、この破片の漢の国内での地金価値は籾約 0.6 ㎥と等価であり、倭ではさらに高価であったはずである。すなわち、金属素材として大きな価値を有していたにもかかわらず、この破片は未使用のまま廃棄されたことになる。よって、この破片は、原料金属として他地域から入手したものである可能性よりも、破壊した銅鐸の一部を意図的に廃棄したものである可能性が高いと考える。

岡山県や香川県には、近畿式銅鐸を完形で埋納した例は突線鈕２式までしかなく、突線鈕３式

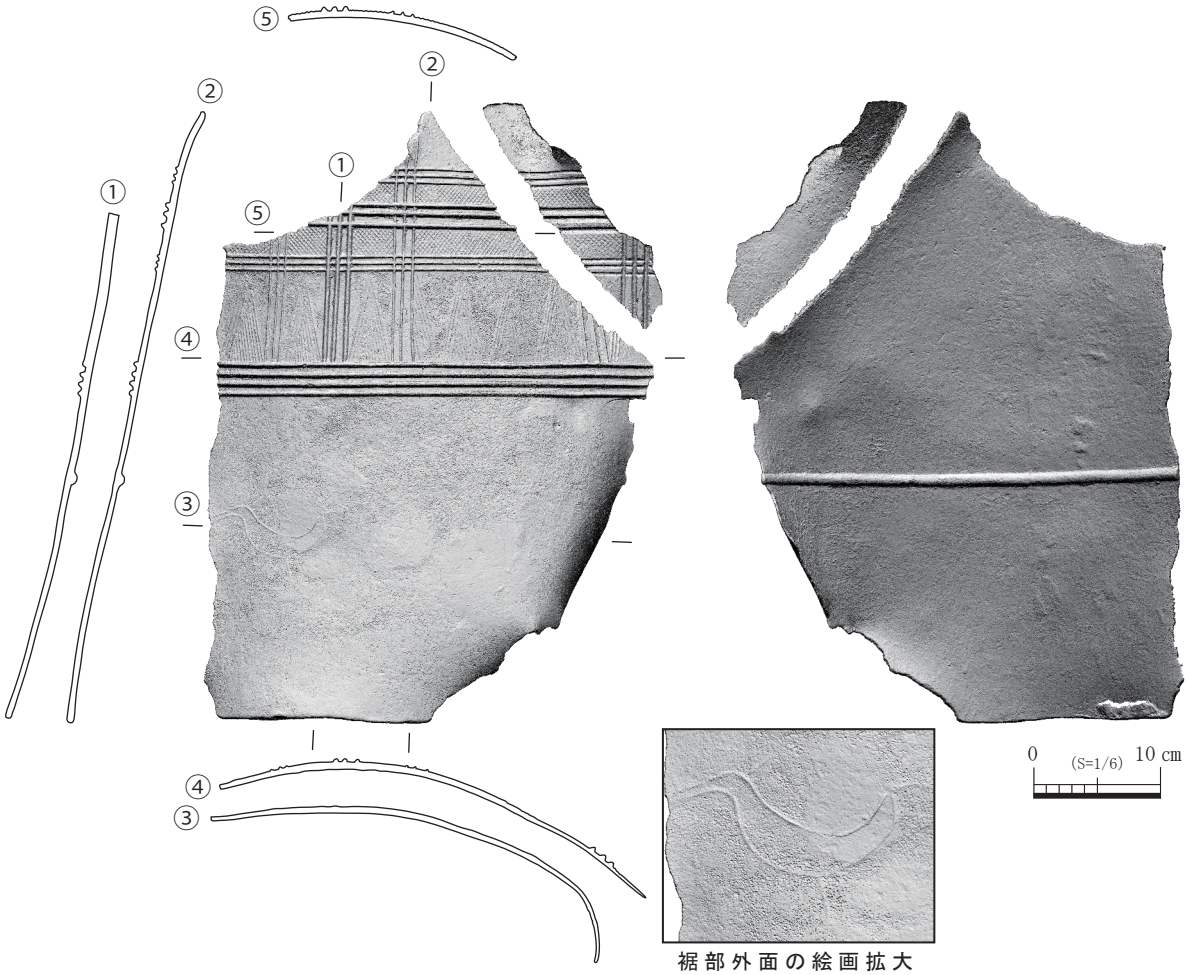


写真10　銅鐸外面

写真11　銅鐸内面

写真12　銅鐸の絵画

三次元計測：奈良県立橿原考古学研究所
遺物写真撮影：西大寺フォト

*三次元計測は、奈良県立橿原考古学研究所に依頼し、科学研究費補助金（基盤研究 B）「三次元計測を応用した青銅器製作技術からみた三角縁神獣鏡の総合的研究」（研究代表者：水野敏典）で実施していただいた。

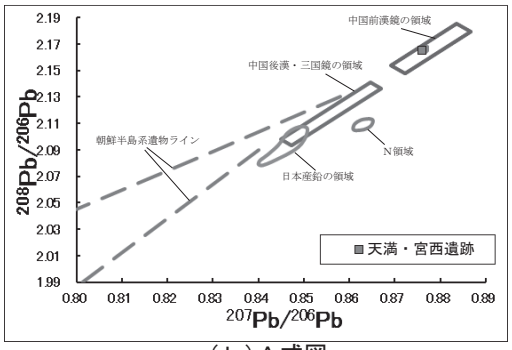
第 23 図　天満・宮西遺跡出土 銅鐸実測図・写真（S= 1／６）

以降はこの地域が近畿式銅鐸の祭祀圏から離脱し、首長墓を発達させることになっていったと考える説が有力である。本例が、本来はこの地域で祭器として使われていた銅鐸であったとすれば、少なくとも讃岐では銅鐸祭祀が近畿式銅鐸の最終段階まで引き続き行われたことになる。一方、

表１　鉛同位体比及びＩＣＰ分析結果

（ａ）鉛同位体比測定結果

| 試料名 | $^{206}Pb/^{204}P$ b | $^{207}Pb/^{204}P$ b | $^{208}Pb/^{204}P$ b | $^{207}Pb/^{206}P$ b | $^{208}Pb/^{206}P$ b |
|---|---|---|---|---|---|
| NBS-SRM-981 | 16.901 | 15.442 | 36.540 | 0.9137 | 2.1620 |
| 天満･宮西遺跡 | 17.727 | 15.530 | 38.374 | 0.8761 | 2.1648 |
| NBS-SRM-981 | 16.899 | 15.439 | 36.529 | 0.9136 | 2.1616 |
| 測定精度 | ±0.010 | ±0.010 | ±0.030 | ±0.0003 | ±0.0006 |




（ｂ）Ａ式図

（ｃ）酸可溶分の定量分析結果　（単位：wt%）

| 試料名 | n数 | Cu | Sn | Pb | As | Bi | Ni | Zn | Fe | Mn | Ag | Sb | Co | Au | Cr | Mg | Si | Ca | Al | B | W | Ba | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 天満・宮西遺跡 | n=1 | 90.71 | 2.22 | 3.49 | 0.395 | 0.040 | 0.075 | <0.001 | 0.064 | 0.001 | 0.161 | 0.459 | 0.012 | 0.005 | <0.001 | 0.043 | 0.027 | 0.025 | 0.014 | <0.001 | <0.001 | 0.002 | 97.74 |
| | n=2 | 89.86 | 2.22 | 3.44 | 0.393 | 0.040 | 0.075 | 0.003 | 0.068 | 0.001 | 0.159 | 0.456 | 0.012 | 0.005 | <0.001 | 0.035 | 0.024 | 0.028 | 0.013 | <0.001 | <0.001 | 0.003 | 96.84 |
| | 平均 | 90.29 | 2.22 | 3.47 | 0.394 | 0.040 | 0.075 | 0.002 | 0.066 | 0.001 | 0.160 | 0.458 | 0.012 | 0.005 | <0.001 | 0.039 | 0.026 | 0.027 | 0.014 | <0.001 | <0.001 | 0.003 | |

この破片が原料金属素材として他地域から入手したものであるとすれば、前記の説が成立する。例のあまりない大型の破片であることも含め、さらに検討を深める必要がある。

### ｄ　科学分析の結果

この銅鐸破片について、難波の科研費（「弥生時代における青銅器生産の総合的研究」（基盤研究（Ｂ）課題番号 25284162））により、鉛同位体比分析とＩＣＰ分析を実施した。ここではその結果を速報する。奈良文化財研究所において内面突帯の健全な金属部分から鉛同位体比分析用 17 mgとＩＣＰ分析用 107 mgを分析試料として採取し、分析は日鉄住金テクノロジー株式会社尼崎事業所解析技術部分析技術室でおこなった。

天満・宮西遺跡出土の近畿式銅鐸破片の鉛同位体比は、いわゆるＡ領域の中でもａ領域と呼ばれる極めて狭い領域に位置し（表１－（ａ）・（ｂ））、この点で近畿式銅鐸・三遠式銅鐸や多くの広形銅矛と共通する。このＡ領域は、日本出土の前漢鏡の測定値が分布する領域で、この領域に入る青銅器は中国華北産の鉛を含むと考えられている。

ＩＣＰ分析によれば、天満･宮西遺跡出土の近畿式銅鐸の破片は、錫濃度 2.22%、鉛濃度 3.47%で（表１－（ｃ））、錫と鉛の濃度が非常に低く、この点で他の近畿式銅鐸と大差がない。主に銅に不純物として含まれていたと考えられるヒ素とアンチモンの濃度は､それぞれ 0.394%､0.458%と、前漢鏡と共通する原料金属を使用した弥生時代の他の青銅器の多くとほぼ同じで、鉛同位体比分析の結果とも整合している。銀などの他の微量元素の濃度も、この段階の中国産原料で作られた青銅器の多くと大差がない。（難波）

## 6 まとめ

今回の調査では、事業地の全域で遺構・遺物を検出した。検出した遺構は、出土遺物から弥生時代後期と中世の遺構と考えられる。出土遺物や遺構等の配置から、これまで確認されている弥生時代後期の天満・宮西遺跡の集落に伴う一連の遺構と考えられる。注目されるのは、調査地が西側隣接地で調査された弥生時代後期の集落本体から自然流路を挟んで東側の微高地上に立地するという点である。また、調査地で竪穴建物等の居住遺構は認められない点も、銅鐸が出土した地点が集落内というよりも集落の外側に位置していることを示していると考えられる。

銅鐸は、流路２の底部直上から出土した。流路２の埋土が粘性の高い土層であることを考慮すると、銅鐸は上流域から流されてきたと考えるよりも、流路の周辺から廃棄されたと考える方が自然な解釈と言える。なお、銅鐸そのものの評価は（３）に詳しく記しており省略するが、銅鐸研究を進める上で重要な資料となることから、今後も継続して検討していく必要がある。

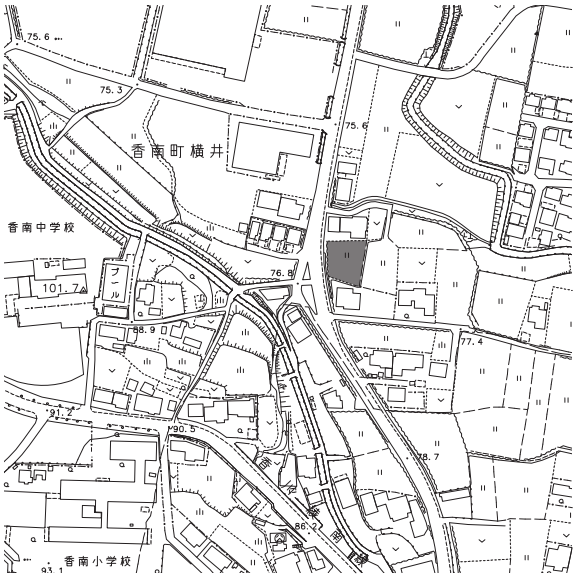
試掘調査後の経過は、調査後に事業地全域が「天満・宮西遺跡」の範囲に追加登録された。工事計画についても、事業者の協力を得て一部の計画が見直され、大半の箇所で保護層の確保が可能となった。配管等の狭小な掘削については、工事立会を行い保護措置を図った。（波多野）

# 16　条里跡（じょうりあと）

**1 所　在　地**　高松市香南町横井
**2 調 査 期 間**　平成 28 年3月 29 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　住宅新築工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者からの依頼を受け、確認調査を実施した。

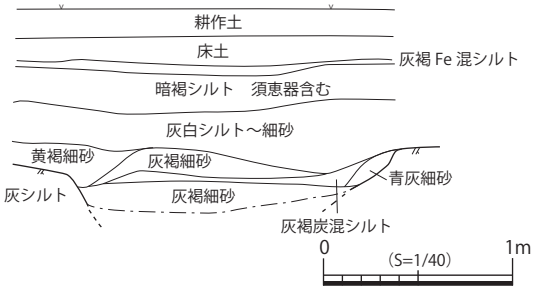
東西方向に１本のトレンチを設定し、調査を行った。現地表面から 0.3 ～ 0.5 ｍの深度で、須恵器を含む暗褐色シルト層が広く確認された。本層には炭等も含み、疎な遺物包含層である。トレンチ東端付近では、現地表面から 0.8 ｍ程度の深度で、灰色シルト層を基盤層とする性格不明遺構（SX １）を検出した。埋土を見ると砂層とシルト層の互層状の堆積が確認でき、調査中にも湧水が著しいことから、溝や旧河道など、通水を伴う遺構の可能性が考えられる。遺構中からは遺物が確認できず、埋没時期は不明だが、上位を被覆する遺物包含層が古代以降に堆積していることから、SX １の埋没は古代以前になされたものと考えられる。



第 24 図　調査地位置図（S= １/5000）

**6 まとめ**

対象地は埋蔵文化財包蔵地である。今回の調査範囲においても埋蔵文化財の包蔵状況を確認した。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。（高上）



第 25 図　SX １断面図（S= １/40）

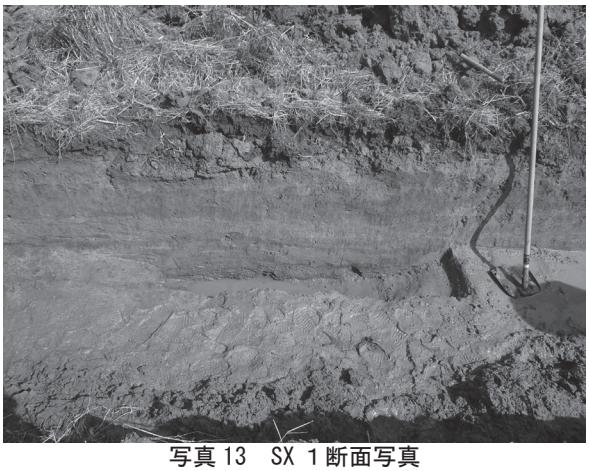


写真 13　SX １断面写真

## 17　林宗高遺跡（はやしむねたかいせき）

**1 所　在　地**　高松市林町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年4月5日、5月2日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　小学校新校舎増築・校庭拡張工事
**5 調査の概要**

対象地は埋蔵文化財包蔵地「林宗高遺跡」に隣接する。事業者の協力を受け、試掘調査を実施した。

西側の校舎新築予定地では、トレンチ西１/３程度～中央やや東よりの範囲で、中世土器を多量に含む落ち込みを確認した。一方、調査区東端付近では、弥生土器を稠密に含む黒色シルト層を最下部で確認した。

東側の校庭拡張予定地では、現地表面下 0.2 m の深度で、上記の黒色シルト層の下層から黄褐色シルト層を基盤とする遺構を確認した。

第 26 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

埋蔵文化財の包蔵状況を確認したため、「林宗高遺跡」の範囲に追加された。開発に先立ち、平成 28 年度に発掘調査を実施し、30 年度に報告書を刊行する予定である。（高上）

## 18　屋島西町谷東地区（やしまにしまちたにひがしちく）

**1 所　在　地**　高松市屋島西町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年4月 18・19 日
**3 調査担当者**　舩築　紀子・梶原　慎司
**4 調査の原因**　分譲住宅造成工事
**5 調査の概要**

対象地は史跡・天然記念物屋島に位置する。事業者からの依頼を受け、確認調査を実施した。

調査では７本のトレンチを設定し、いずれのトレンチでも遺構は認められなかった。基本層序は、Ⅰ層が現代耕作土、Ⅱ層が褐灰色粘質土、Ⅲ層が灰色海性砂層である。Ⅱ層は磨滅した時期不明の土器片や陶磁器片、白磁片を含む。

対象地の東側ではⅡ層が認められたが、西側では認められなかった。

第 27 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

対象地は八坂神社から潟元にかけて存在した可能性がある砂州の西側海岸部であったと考えられるが、周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。なお史跡指定地内であることから工事に際し立会による保護措置を行った。（梶原）

## 19　太田城跡（おおたじょうあと）

**1 所　在　地**　高松市太田上町
**2 調 査 期 間**　平成28年4月20日
**3 調査担当者**　高上　拓・香川　将慶
**4 調査の原因**　住宅建設工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「太田城跡」内に位置する。事業者からの依頼を受け、確認調査を行った。

調査では、近世以降の瓦や建物の攪乱により中世以前の遺構は見られなかったが、トレンチの北側部分で北に向かって落ち込みが確認された。

**6 まとめ**

当該地が太田城跡の北限に位置することから、北限区画溝あるいは自然地形の落ち込みと考えられる。本確認調査をもって今回の工事に伴う保護措置は完了した。（香川）

第28図　調査地位置図（S= 1/5000）

## 20　雨山南遺跡（あめやまみなみいせき）

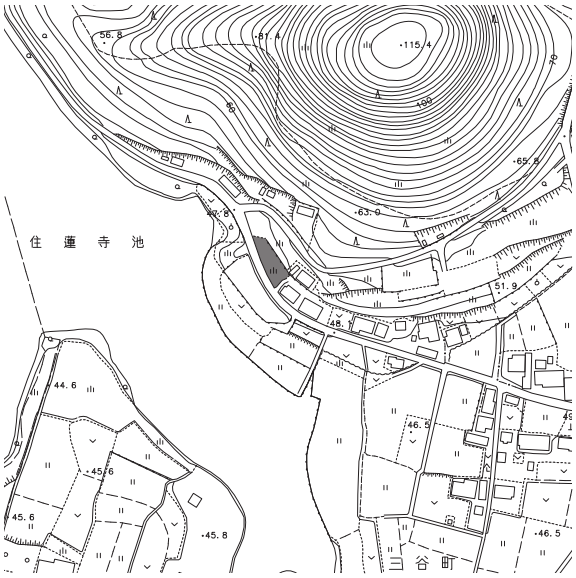
**1 所　在　地**　高松市三谷町
**2 調 査 期 間**　平成28年4月25日
**3 調査担当者**　高上　拓・香川　将慶
**4 調査の原因**　住宅建設工事
**5 調査の概要**

対象地の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地「雨山南遺跡」内に位置する。事業者からの依頼を受け、確認調査を行った。

重機で60㎝程度掘削したが、遺構・遺物は確認されなかった。現地はすでに造成が完了しており、削平されたと考えられる。

**6 まとめ**

今回の確認調査で埋蔵文化財の包蔵状況は確認できず、本確認調査をもって今回の工事に伴う保護措置は完了した。（香川）



第29図　調査地位置図（S= 1/5000）

# 21　居石遺跡（おりいしいせき）

**1 所　在　地**　高松市伏石町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年4月 22 日
**3 調査担当者**　高上　拓・香川　将慶
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

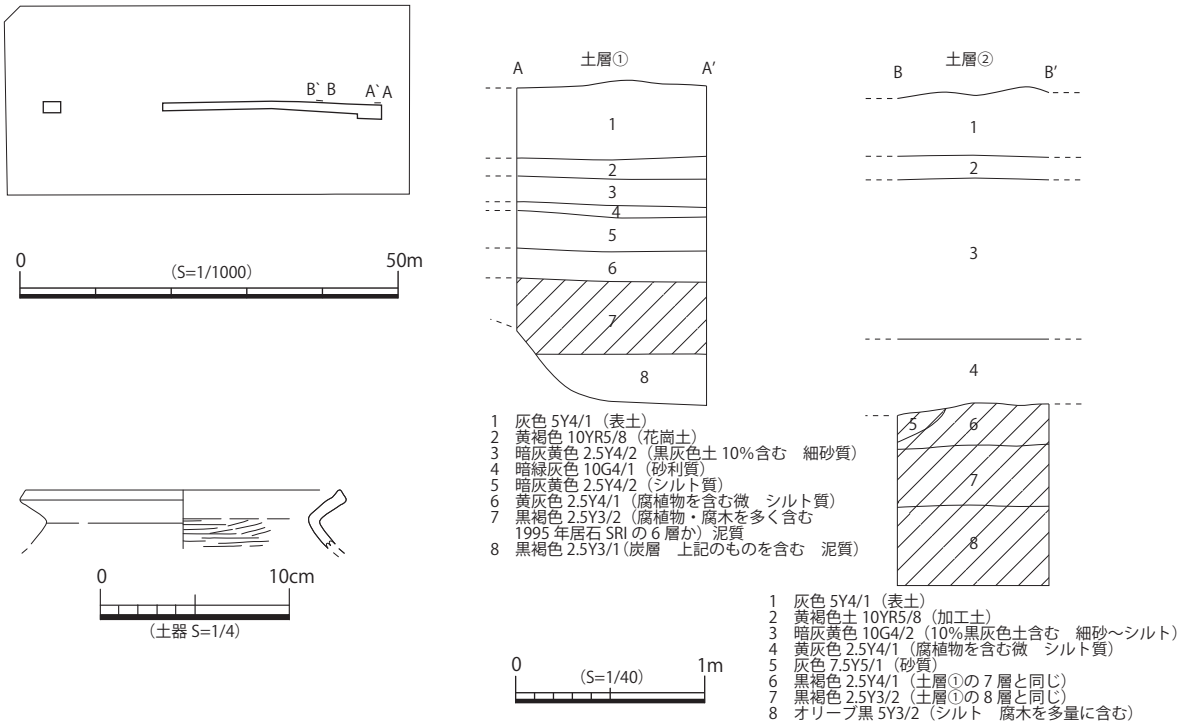
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「居石遺跡」に隣接する。事業者からの依頼を受け、試掘調査を行った。

試掘トレンチを２本設定し、調査を行った結果、東側トレンチ全域で木質を多量に含む黒色シルト～粘土層を確認した。この堆積層は、居石遺跡の発掘調査で確認したＳＲ１が試掘調査区まで延伸しているものと考えられる。埋土中より古墳時代前期の土師器が出土している。

第 30 図　調査地位置図（S= １/5000）

**6 まとめ**

今回の試掘調査で北側に隣接する居石遺跡から連続する遺構を検出したことから、当該地は「居石遺跡」に追加された。開発に際しては適切な保護措置が必要である。（香川）




第 31 図　トレンチ配置図（S= １/1000）・断面図（S= １/40）・出土遺物実測図（S= １/ ４）

# 22　佐藤遺跡（さとういせき）

**1 所　在　地**　高松市鬼無町佐藤
**2 調 査 期 間**　平成 28 年5月 12 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

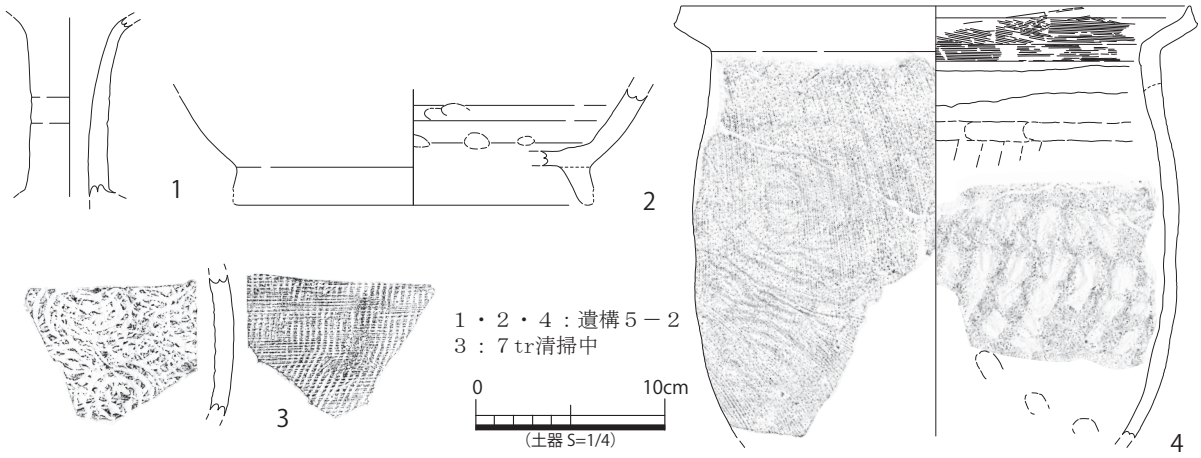
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「佐藤城跡」に近接する。事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。調査にあたり７本のトレンチを設定した。

第 32 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

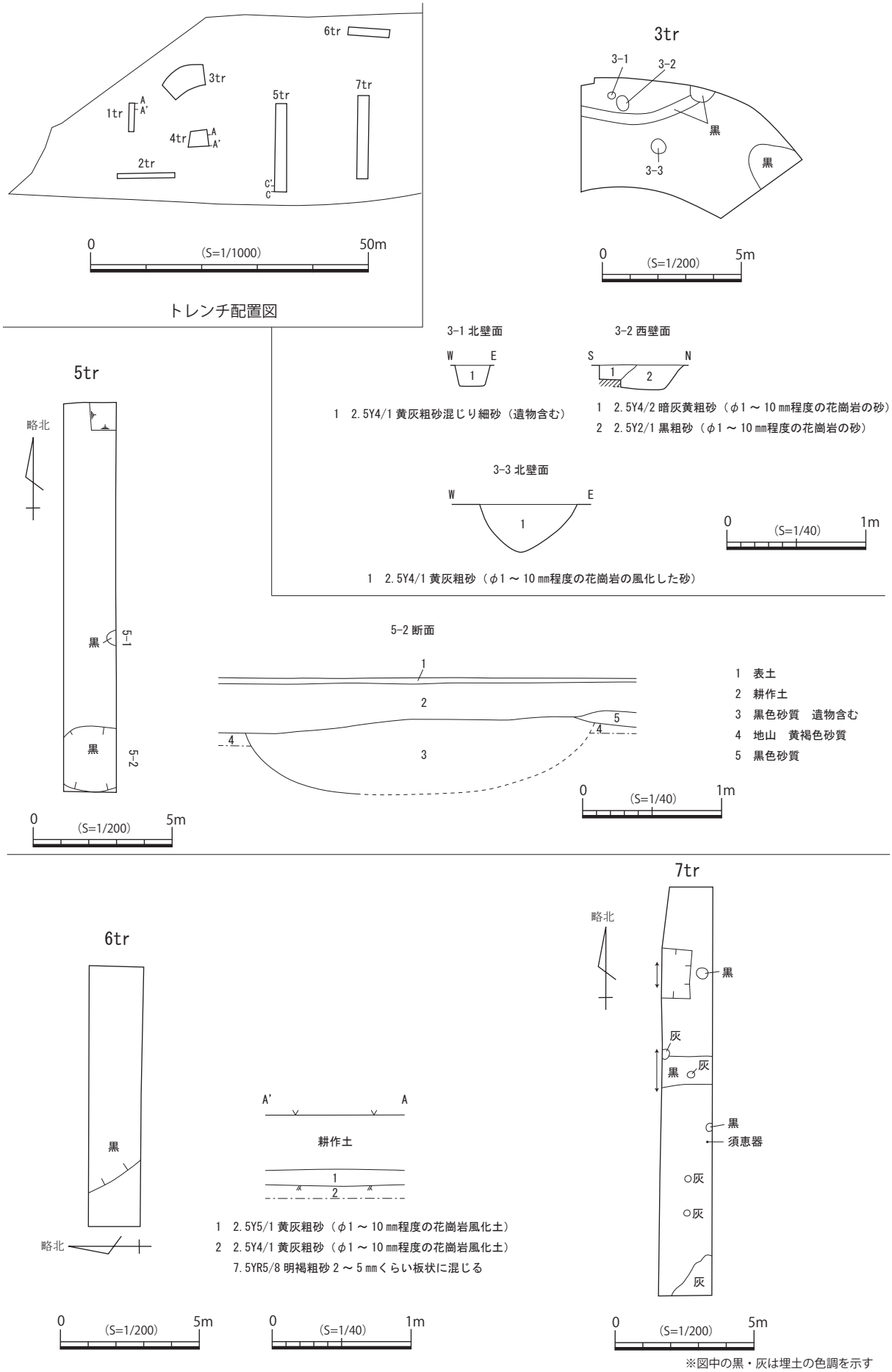
調査の結果、全域で遺構面を確認し、特に東側で遺構・遺物を密に検出した。遺構面はいずれも褐～黄灰色粗砂を主体とした山からの崩積土である。溝跡・土坑の可能性がある遺構を検出してるが、調査面積が狭小であるため、配置や性格は評価できない。遺構埋土は黒色系、灰色系の両者を確認しており、埋没時期の異なる遺構形成が予測される。少数の遺構を半裁したが、出土した須恵器の器種をみると高台付杯や甕等が確認されたほか、最も注目されるのが花瓶か水瓶と思われる仏具的な遺物が出土したことである。１は花瓶或いは水瓶の頸部分であると考えられる。頸部は通常の長頸壺よりも細く、頸部の中央に沈線が２条見られ、花瓶の特徴を表しているものと考えられる。また、２も形状を類例と比較すると、体部が逆卵型になることが想定され、花瓶或いは水瓶の底部であると考えられる（石田茂作 1976『仏教考古学講座　第５巻仏具』）。これらから、寺院等の仏具を扱う遺跡の可能性が考えられる。４は 10 世紀以前の土師器甕である。また、図化していないが、９世紀前半から中頃にかけての高台付杯も遺構確認中に出土した。局所的な調査であるが、遺跡の性格として未発見の古代寺院か村落内寺院等の可能性が考えられる。

**6 まとめ**

佐藤城跡に近接するが、遺構としての同一性を確認しがたいことから、小字名を採って周知の埋蔵文化財包蔵地は「佐藤遺跡」として新規登録された。今後の開発事業にあたっては適切な保護措置が必要である。（高上・香川）



第 33 図　出土遺物実測図（S= 1 / 4）




※図中の黒・灰は埋土の色調を示す

第 34 図　第３・５・６・７トレンチ平面図・断面図（S= 1/200・S= 1/40）

# 23　佐料遺跡（さりょういせき）

**1 所　在　地**　高松市鬼無町佐料
**2 調 査 期 間**　平成 28 年6月 21 日
**3 調査担当者**　波多野　篤・杉原　賢治
**4 調査の原因**　分譲住宅及び駐車場造成工事
**5 調査の概要**

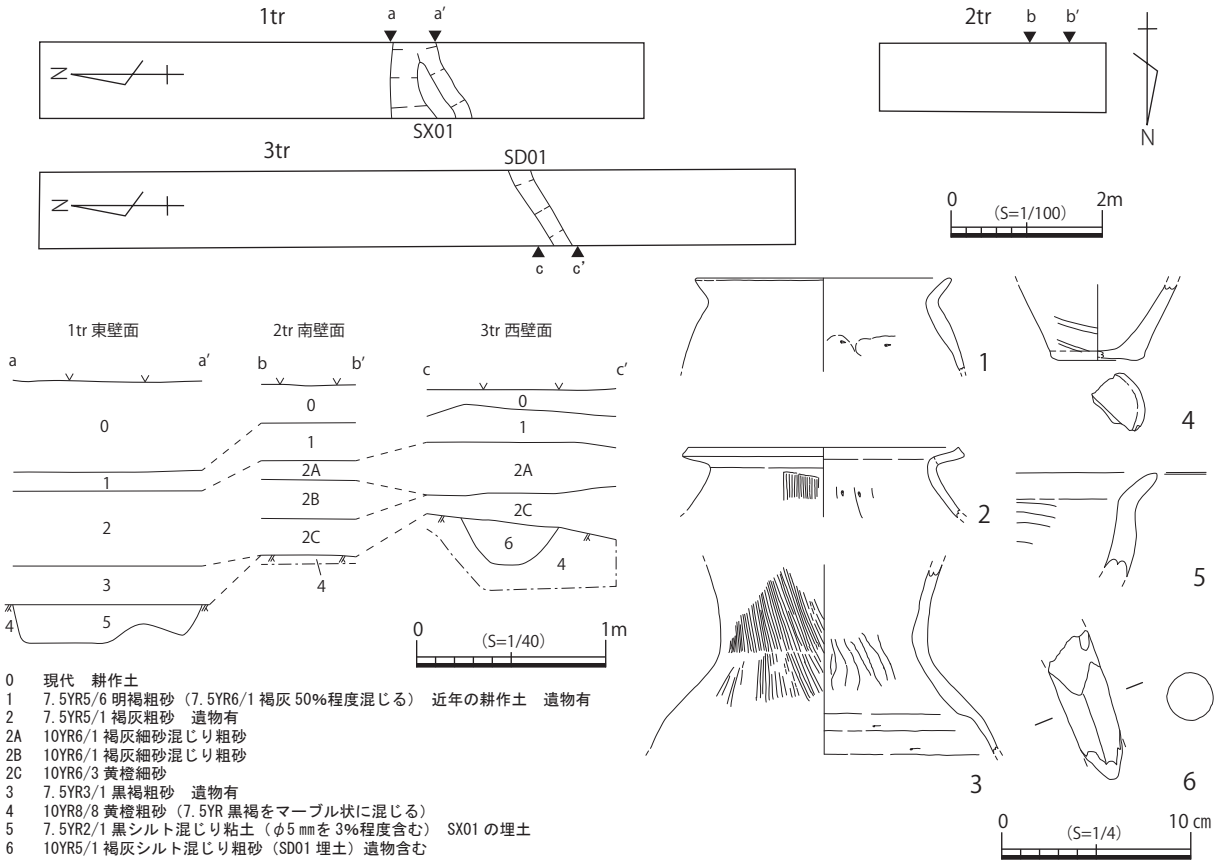
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「佐料遺跡」の範囲内にあたる。基本層序は、１層は近年の耕作関連の層、２層は褐灰色粗砂、３層は黒褐色粗砂、４層は黄橙色粗砂である。このうち、２層は自然堆積層と考えられる。３層は、地形的に低い１tr で認められる弥生土器を含む遺物包含層である。４層は地山と考えられる。

１・３tr で溝１条、性格不明遺構１基を検出した。遺物は SD01 からは弥生時代後期の甕（１・２）、長頸壺（３）、甕底部（４）が出土した。SX01 からは弥生時代後期の鉢（５）が出土した。それ以外では、表採資料の中世の足釜の足部（６）がある。

第 35 図　調査地位置図（S= １/5000）

**6 まとめ**

今回の調査では、弥生時代後期に帰属する溝と性格不明遺構を確認した。周辺で調査されている佐料遺跡と同時期の遺構であることから、一連の集落に伴う遺構と考えられる。開発に際しては適切な保護措置が必要である。（杉原）




0　現代　耕作土
1　7.5YR5/6 明褐粗砂（7.5YR6/1 褐灰 50%程度混じる）　近年の耕作土　遺物有
2　7.5YR5/1 褐灰粗砂　遺物有
2A　10YR6/1 褐灰細砂混じり粗砂
2B　10YR6/1 褐灰細砂混じり粗砂
2C　10YR6/3 黄橙細砂
3　7.5YR3/1 黒褐粗砂　遺物有
4　10YR8/8 黄橙粗砂（7.5YR 黒褐をマーブル状に混じる）
5　7.5YR2/1 黒シルト混じり粘土（φ5 ㎜を 3%程度含む）　SX01 の埋土
6　10YR5/1 褐灰シルト混じり粗砂（SD01 埋土）遺物含む

第 36 図　第１～３トレンチ平面図・断面図（S= １/100・１/40）・出土遺物実測図（S= １/ ４）

## 24　条里跡（じょうりあと）

**1 所　在　地**　高松市香南町横井
**2 調 査 期 間**　平成 28 年6月 18 日
**3 調査担当者**　波多野　篤
**4 調査の原因**　個人住宅建設工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」の範囲内にあたるため、着工前に１本の調査区を設定して確認調査を実施した。事業地は、現代耕作土・旧耕作土の下は灰白色粗砂層（氾濫堆積物の可能性あり）、明黄褐色シルト質粘土層（地山）の順に土層が堆積する。地山までの深さは、現状地盤から約 0.6 ｍである。地山上面で遺構は認められなかった。

第 37 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

調査区を設定した箇所で遺構は認められなかったが、事業地内の他の箇所の埋蔵文化財の包蔵状況は不明であるため、工事の際には適切な保護措置を図る必要がある。（波多野）

## 25　林・坊城遺跡（はやし･ぼうじろいせき）

**1 所　在　地**　高松市林町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年8月1日～8月2日
**3 調査担当者**　香川　将慶
**4 調査の原因**　アパート建設工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「林・坊城遺跡」に隣接する。事業者からの依頼を受け、試掘調査を行った。

試掘トレンチを４本設定し、調査を行った。結果、中世のものと考えられる土坑と隣接する林・坊城遺跡と堆積土が類似する溝を確認した。

第 38 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

今回の試掘調査で南側に隣接する林・坊城遺跡から連続する遺構を検出したことから、当該地を「林・坊城遺跡」の範囲に追加された。その後、開発工事に伴い発掘調査を行い、平成 28 年度末に調査報告書を刊行する予定である。（香川）

# 26　川島郷遺跡（かわしまごういせき）

**1 所　在　地**　高松市川島東町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年7月 16 日
**3 調査担当者**　船築　紀子
**4 調査の原因**　こども園整備事業
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」に隣接する。こども園整備事業が計画されたため、２本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。

基本層序は、花崗土の下にⅠ層：オリーブ黒色中粒砂混じり微細砂（近世以降の堆積層）、Ⅱ層：オリーブ褐色シルト混じり細砂～中粒砂（第１遺構面）、Ⅲ層:オリーブ褐色粘土（第２遺構面・地山）である。

遺構は、第１遺構面で、１トレンチで溝ないし流路１条を、２トレンチで溝２条と土坑１基を検出した。第２遺構面については、第１遺構面の遺構の検出状況と地下埋設物の関係から、人力による一部の断割りによる断面観察で確認したのみで、平面的な検出は行っていない。

第 39 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

事業地内で遺構を確認した。出土遺物や堆積状況から、遺構の時期は第１遺構面が中世、第２遺構面が弥生時代と考えられる。

なお、試掘調査後に、事業地が周知の埋蔵文化財包蔵地「川島郷遺跡」として新規に登録された。また、その範囲内で行われる工事については、今後、保護措置をとる必要がある。（船築）

写真 14　１トレンチ 遺構検出状況（北西から）

写真 15　２トレンチ 遺構検出状況（南東から）

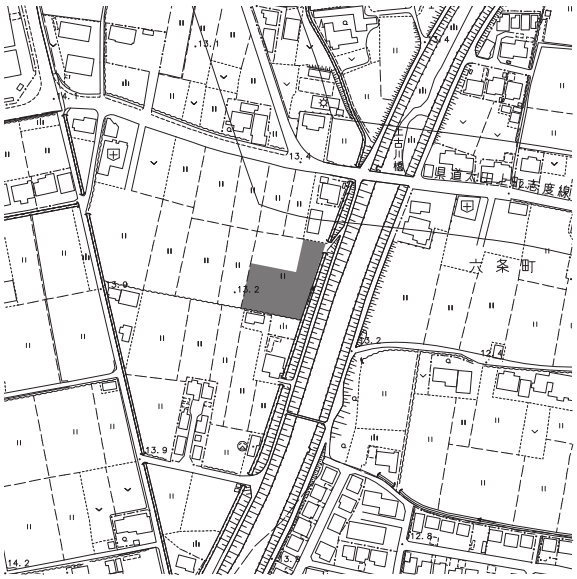
# 27　六条上青木遺跡（ろくじょうかみあおきいせき）

**1 所　在　地**　高松市六条町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年7月 22 日～7月 25 日
**3 調査担当者**　舩築　紀子・磯崎　福子
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「六条上青木遺跡」に隣接する。宅地造成工事が計画されたことから、事業者の任意の協力により、５本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。

基本層序は、耕作土の直下が黄褐色シルト混じり粘土の地山層となる。

遺構は５トレンチを除く各トレンチで確認した。確認した遺構は溝とピットである。このうち、溝の埋土は黒褐色中粒砂～粗砂混じりシルトと、黒褐色粘土混じり細砂～シルトである。ピットは、埋土が褐灰色～暗灰黄色微細砂～シルトである。埋土の観察と周辺の調査成果から、黒褐色のものが古墳時代、褐灰色のものが中世の遺構と考えられる。遺物は須恵器片が出土した。



第 40 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

事業地内で溝や土坑、ピットなど、複数の遺構を確認した。遺構の時期は、埋土の観察や出土遺物から、古墳時代と中世に属するものと考えられる。

当該地は周辺地形から推定すると、空港跡地遺跡が展開する微高地の縁辺部であり、この遺跡が当該地まで広がっている可能性がある。

なお、試掘調査の結果、事業地は「六条上青木遺跡」の範囲に追加された。なお、工事に際して立会調査を実施し、保護措置は完了した。（舩築）

写真 16　１トレンチ 遺構検出状況（南東から）

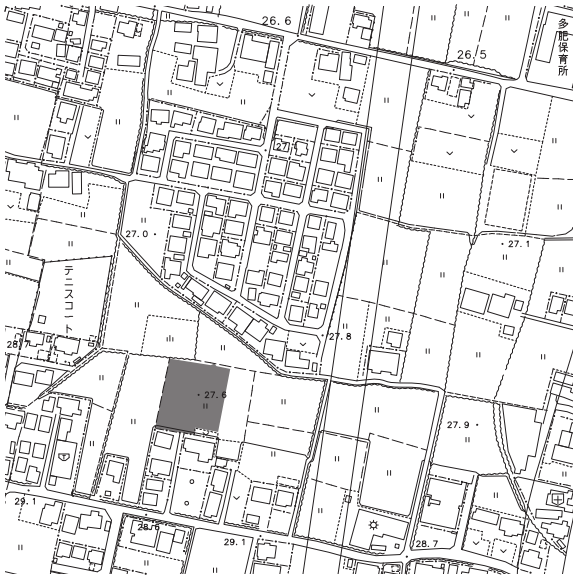
写真 17　４トレンチ 遺構検出状況（北東から）

# 28　井手上中所遺跡（いでうえちゅうしょいせき）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年7月 25・26 日
**3 調査担当者**　渡邊　誠・香川将慶
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「井手上中所遺跡」に近接する。周辺部の状況から遺跡が広がっている可能性が高かったことから、事業者から任意の協力を受け、試掘調査を実施した。調査では２本のトレンチを設定した。

いずれのトレンチにおいても２面の遺構面を確認した。第１遺構面は黒褐色シルトが基盤層となっており、遺構の埋土は淡灰色を呈する。第２遺構面は黒褐色シルト下位の暗黄灰褐色粘質土（地山）に形成されたもので、方形の竪穴建物、土坑、溝状遺構等が確認された。方形の竪穴建物の存在から、古墳時代と想定される。土師器杯と考えられる破片も出土した。



第 41 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

調査成果は対象地北側に位置する井手上中所遺跡の調査成果と整合するものであり、連続した遺跡群として捉えることができるので、「井手上中所遺跡」の範囲に追加された。今後の開発に際しては、適切な保護措置が必要である。（渡邊）

第 42 図　トレンチ配置図（S= 1 /2500）

写真 18　第１トレンチ 遺構検出状況

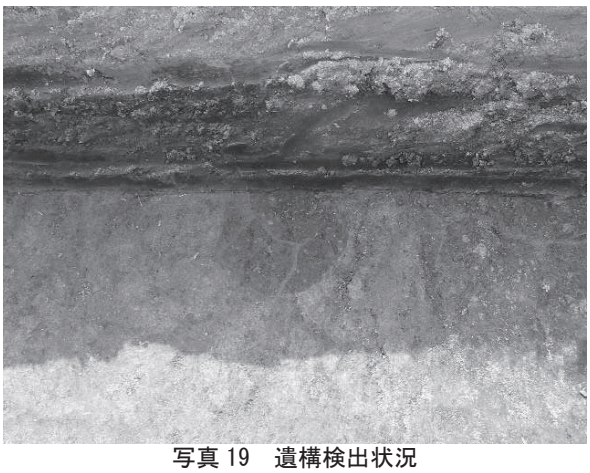
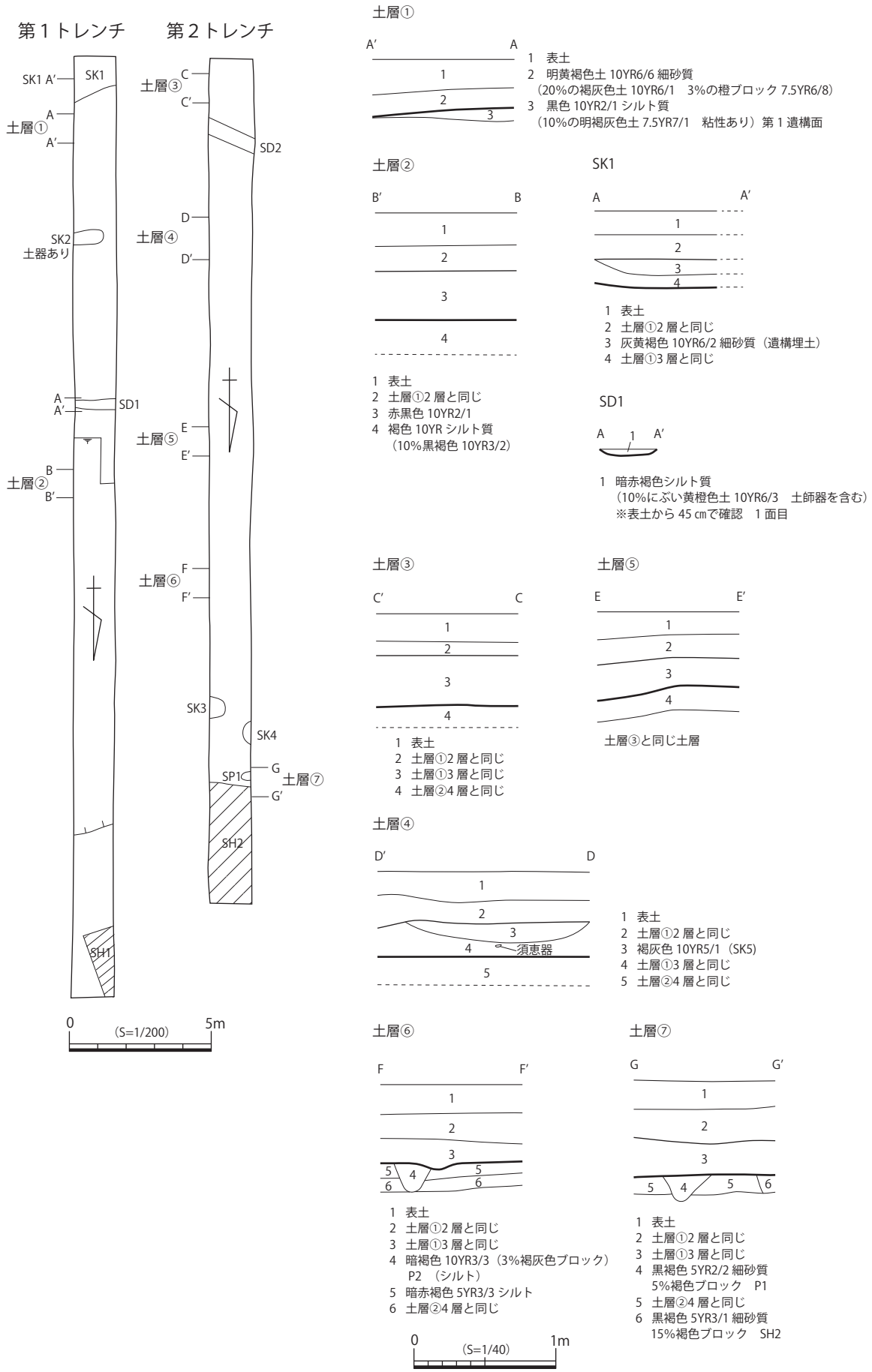


写真 19　遺構検出状況




第 43 図　トレンチ平面図・断面図（S= 1 /200・S= 1 /40）

# 29　野郷遺跡（のごういせき）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年7月 27 日
**3 調査担当者**　渡邊　誠・香川将慶
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

第 44 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「野郷遺跡」に近接する。周辺部の状況から遺跡が広がっている可能性が高かったことから、事業者から任意の協力を受け、試掘調査を実施した。調査は、諸般の事情から、限定された範囲に３本のトレンチを設定して実施した。

各トレンチで遺構を確認したが、第３トレンチでは竪穴建物が確認できた。第１トレンチでは北端で地山が大きく北へと傾斜する状況を確認することができ、対象地周辺が北東方向へと大きく傾斜する地形であったことが判明した（第２遺構面）。地形が傾斜した箇所は後世に造成がなされており、その上面においても遺構が形成されていた（第１遺構面）。第２・３トレンチは地形の高い場所に設定したため、遺構面は単層で、地山に遺構が掘り込まれていた。

出土遺物は第１トレンチＳＫ２から弥生土器の壺の口縁部（４）、第２トレンチＳＤ２から土師質土器鍋（３）、竪穴建物から須恵器杯身（１）、土師器壺（２）が出土した。

遺構の年代は、ＳＫ２は第１遺構面の所産であり、弥生土器は混入と考えられる。ＳＤ２は 12 世紀中頃と考えられる。竪穴建物は、埋土直上から出土した須恵器杯身（１）から、古墳時代後期と考えられる。

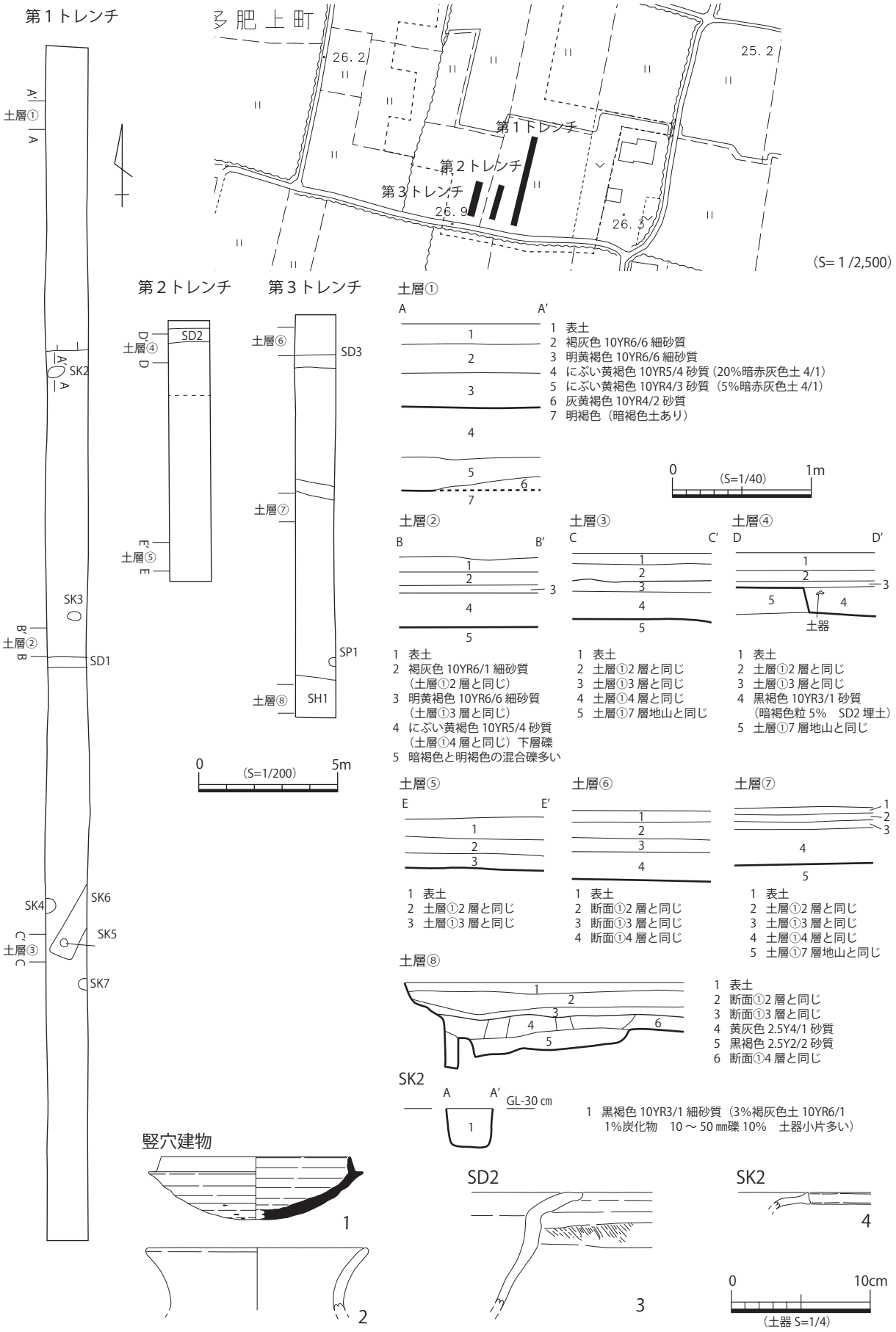
以上の成果から、第１トレンチで確認された造成土（第１遺構面）は少なくとも 12 世紀中頃以後の所産と言え、第２遺構面は古墳時代後期以前の所産と考えられる。

**6 まとめ**

今回の調査は土地利用の制約から限られた範囲の調査により全体の包蔵地の存否を判断するものであったが、各トレンチにおいて遺構が削平された状況は認められず、周辺にも遺構が広がっているものと想定できる。以上の成果から「野郷遺跡」の範囲に追加された。今後の開発などに際しては、適切な保護措置が必要である。（渡邊）

写真 20　第１トレンチ 遺構検出状況

写真 21　遺構検出状況




第 45 図　トレンチ平面図・断面図（S= 1 /200・S= 1 /40）・出土遺物実測図（S= 1 / 4 ）

# 30　条里跡（じょうりあと）

**1 所　在　地**　高松市香南町吉光
**2 調 査 期 間**　平成28年8月3日
**3 調査担当者**　船築　紀子
**4 調査の原因**　個人住宅建設工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「条里跡」の範囲内にあたる。個人住宅建設工事が計画されたため、埋蔵文化財の包蔵状況を確認するため、L字形にトレンチを設定して調査を実施した。

基本層序は、耕作土の下にⅠ層：黄褐粘土、Ⅱ層：暗灰黄粘土混じり細砂～中粒砂、Ⅲ層：にぶい黄褐粘土・黄灰シルトである。Ⅲ層は当地の基層をなす自然堆積層(地山)と考えられる。遺構は、Ⅲ層上面で落ち込みを検出した。埋土は暗灰黄細砂～中粒砂混じり粘土で、人為的な活動痕跡と考えられる黒褐色粘土～シルトブロックを含む。

第46図　調査地位置図（S= 1/5000）

**6 まとめ**

今回の調査では、事業地内に落ち込み状の遺構を確認した。遺物が出土していないため、遺構の時期は不明である。

なお、事業地内で行われた文化財に影響のある工事に際して工事立会を行い、保護措置を完了した。(船築)

写真22　1トレンチ　遺構検出状況（北東から）

写真23　1トレンチ遺構検出状況（北西から）

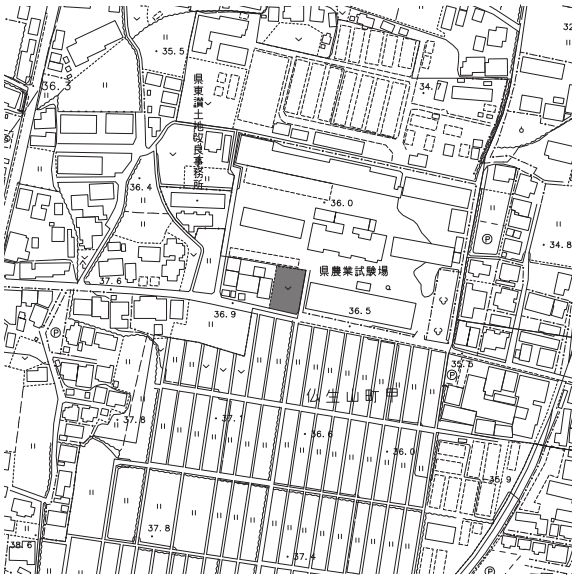
# 31　萩前・一本木遺跡（はぎのまえ・いっぽんぎいせき）

**1 所　在　地**　高松市仏生山町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年8月 22 日
**3 調査担当者**　船築　紀子
**4 調査の原因**　店舗建設工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「萩前・一本木遺跡」に隣接する。店舗建設工事が計画されたことから、事業者の任意の協力により、２本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。

基本層序は、耕作土直下で遺構面である。地山は黄褐色細砂混じりシルトである。

遺構は１トレンチで溝１条と土坑２基を、２トレンチで竪穴建物１棟と溝２条を検出した。



第 47 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

調査の結果、事業地全体に遺構が展開していることが明らかとなった。２条の溝は、南北方向の溝で、平成 26 年度に発掘調査を実施した際に検出した溝と同一の溝と考えられる。周辺の調査事例と埋土の状況から、飛鳥～奈良時代の溝と考えられる。また竪穴建物は、周辺の調査事例から、古墳時代の遺構と考えられる。今回、竪穴建物が確認できたことから集落が当該地にも展開していたことがうかがえ、古墳時代から古代の集落遺跡である萩前・一本木遺跡の一部であると判断できる。

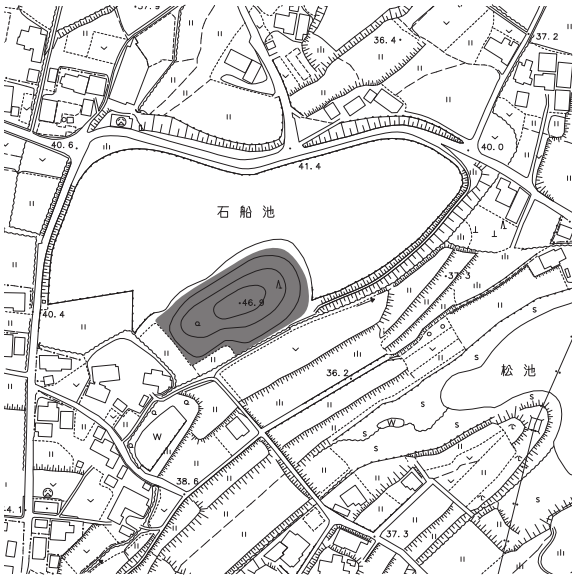
なお、試掘調査後に、事業地の全体が周知の埋蔵文化財包蔵地「萩前・一本木遺跡」に追加された。事業地内で行われた文化財に影響のある工事に際して工事立会を行い、保護措置を完了した。（船築）

写真 24　１トレンチ 遺構検出状況（南西から）

写真 25　２トレンチ 遺構検出状況（南東から）

# 32　三谷石舟古墳（みたにいしふねこふん）

**1 所　在　地**　高松市三谷町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年8月 16 日～9月1日
**3 調査担当者**　高上　拓・徳島文理大学文学部
　　大久保徹也教授
**4 調査の原因**　重要遺跡確認調査
**5 調査の概要**



第 48 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

対象地は、高松市指定史跡「三谷石舟古墳」である。高松市教育委員会と徳島文理大学文学部の連携協定に基づく共同調査として、三谷石舟古墳の後円部上に所在する、刳抜式石棺の現況調査を実施した。

三谷石舟古墳については、かつて高松工芸高校郷土史研究会による詳細な墳丘測量図が報告されている（高松工芸高校郷土史研究会 1992）。また、石棺についても、これまでに実測図が掲載されている（香川県教委 1980、北山 2006）。高松市では、石棺の保存状態の確認及び棺蓋の存否、石棺の設置現況を確認するため、重要遺跡の確認調査を実施した。

調査内容であるが、まず後円部上の落葉清掃・高密度コンターの墳丘測量を実施した。併行して、石棺表面のコケを柔らかなブラシで入念に洗い落とし、表面の製作技法等について観察・記録を行った。また、後円部上で石棺を中心として十文字状に表土除去を行い、石棺基底部が墳丘上のどういった堆積層上に置かれているかを確認した。さらに、石棺については手ばかりで縦横断面を実測するとともに、三次現写真合成測量を徳島文理大学が実施した。

**6 まとめ**

調査の結果、石棺表面で風雨に晒されにくい範囲では、加工痕が明確に確認できること、逆にそれ以外の範囲では表面の磨滅が著しく、調整が確認しがたくなっていることを確認した。また、石棺蓋の破材の散布とみられていた棺身周辺の大型の石材について、少なくとも石棺の旧状を留めた加工面は一面も確認できず、蓋と確定する要素が認めがたいことを確認した。また、整理作業中であるが、表土中より多量の土師器と、有稜系定角式鉄鏃３点が出土した。これらは、埋葬施設内及び墳丘上面の擾乱に伴い表土中に埋没したものと考えられ、三谷石舟古墳の石棺に共伴する遺物である可能性が高い。従前石棺の形式学的位置から古墳の帰属時期が判断されてきたが、他の副葬品との共伴関係が確認できたことは重要である。今後整理作業を進める。（高上）

写真 26　石棺清掃状況

写真 27　石棺周辺の堆積状況

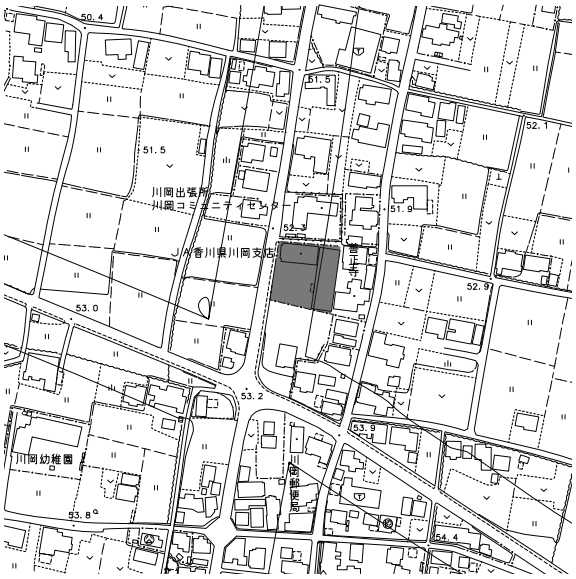
かわなべちょううすいちく
# 33　川部町臼井地区

**1 所　在　地**　高松市川部町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年9月 24 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　コミュニティセンター・消防屯所改築工事

**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業者の任意の協力を得て試掘調査を実施した。

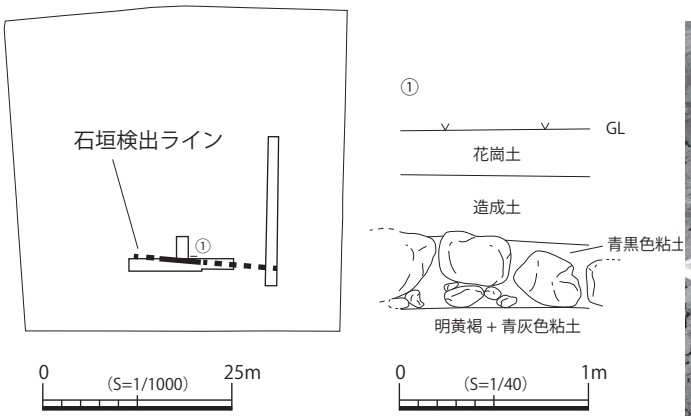
調査の結果、概ね南北方向に延びる石垣を検出した。両端いずれもトレンチ外へ延伸するため、規模は不明であるが、検出長で 16 m を測る。人頭大程度の砂岩円礫を最高で 3 石程度、高さ 40 cm程度に積み上げており、石積み技法は乱積みである。被覆土より、近世末の焙烙、陶器片が出土していることから、遺構の埋没時期は近世末以降である。その他、中世までさかのぼる遺構・遺物は確認できなかった。



第 49 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

調査の結果、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（ 高上 ）



第 50 図　トレンチ配置図・石垣立面図

写真 28　石垣検出状況（南西から）

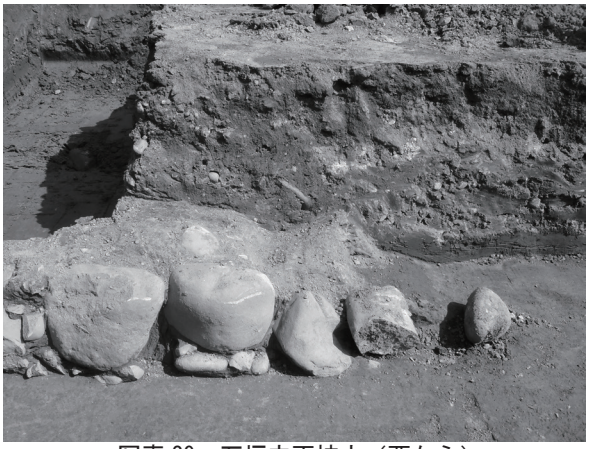


写真 29　石垣立面拡大（西から）

写真 30　石垣検出状況（北西から）

## 34　十川東町佐古地区（そがわひがしまちさこちく）

**1 所　在　地**　高松市十川東町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年9月 27 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　宅地造成工事
**5 調査の概要**

対象地は埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」に隣接する。事業者からの任意の依頼に基づき試掘調査を実施した。

調査の結果、遺構・遺物を確認することはできなかった。地形に関する所見として、南側から北側に標高が下がる地形である点を確認した。一方、東西方向にはあまり起伏が見られない。堆積層は粘土を主体とし、間層として砂層が確認できることから、氾濫等による堆積作用が働いたことが判る。

第 51 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

調査の結果、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）

## 35　林町青塚地区（はやしちょうあおつかちく）

**1 所　在　地**　高松市林町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 10 月 16 日
**3 調査担当者**　船築　紀子
**4 調査の原因**　こども園整備事業
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではないが、事業に先立ち埋蔵文化財の包蔵状況を確認するため、任意の協力のもと１本のトレンチを設定して試掘調査を実施した。

基本層序は、花崗土の下がオリーブ灰色シルトで、グライ化が確認できた。この層が自然堆積層（地山）と考えられえる。オリーブ灰色シルト層上面で遺構検出を行ったが、遺構・遺物は確認できなかった。また、同層を断ち割って、現地表下1.8ｍまで堆積状況を確認したが、同じ堆積層が連続していた。

第 52 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

今回の試掘調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（船築）

## 36　条里跡（じょうりあと）

**1 所　在　地**　高松市香南町由佐
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 10 月 17 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　住宅建設工事
**5 調査の概要**

対象地は埋蔵文化財包蔵地「条里跡」内に位置する。事業者から依頼を受け、確認調査を実施した。

調査にあたり、既存の住宅を避けて西側に１本のトレンチを設定した。調査の結果、現地表面から約 1.3 ｍの深度まで花崗土が確認され、その直下で旧耕作土及び地山を確認した。調査可能範囲は狭小であったため、遺構・遺物は確認できなかった。

第 53 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

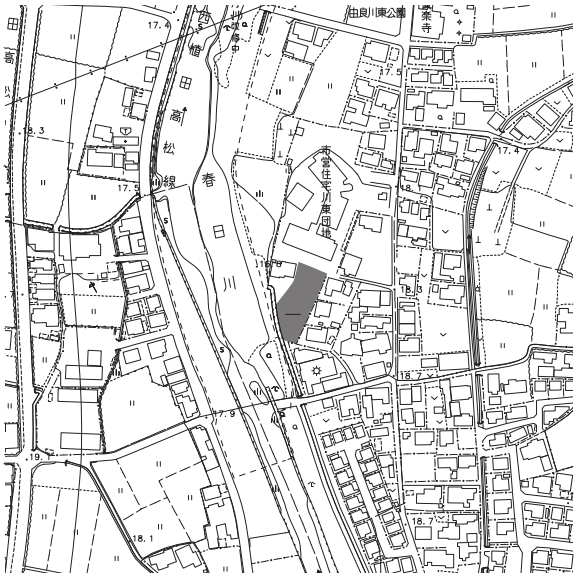
対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地であるが、今回の調査範囲では埋蔵文化財の包蔵状況は確認できなかった。（高上）

## 37　由良南原遺跡（ゆらなんばらいせき）

**1 所　在　地**　高松市由良町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 10 月 17 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　倉庫新築工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「由良南原遺跡」に隣接する。事業者から任意の依頼を受け、試掘調査を実施した。

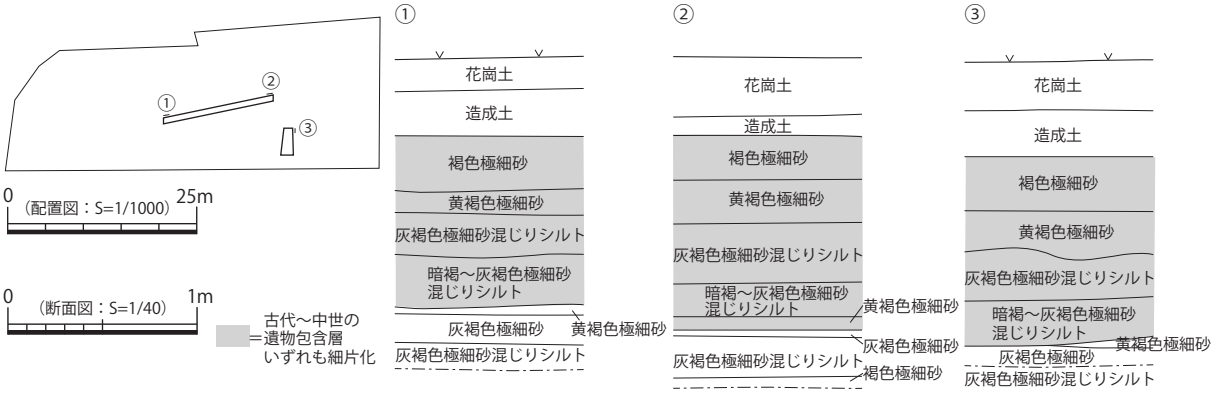
調査にあたり、南北トレンチ、東西トレンチの２本のトレンチを設定した。図化した３箇所ともに堆積状況は酷似しており、現地表面下約 0.4 ｍまでは既に造成されている。褐色極細砂以下の 1.2 ｍ程度までは、砂層と砂混じりシルト層が互層状に堆積している。また、これらの層中には上層から下層まで中世の土器片が比較的まとまって包含されている。以上の堆積状況から、当該地は中世に段階的に埋没した低地であると考えられる。隣接する由良南原遺跡では、旧河道（SR01）が確認されており、堆積状況及び出土遺物から、同一遺構の可能性が高い。




第 54 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

埋蔵文化財の包蔵状況が確認できたため、「由良南原遺跡」の範囲に追加された。今後の開発に際しては、適切な保護措置が必要である。（高上）




第 55 図　トレンチ配置図・断面図（S= 1 /1000・S= 1 /40）

写真 31　調査状況

写真 32　断面①

## 38　竹部遺跡（たけべいせき）

**1 所　在　地**　高松市上林町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 10 月 21 日～ 10 月 24 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　保育所建設工事
**5 調査の概要**

対象地は埋蔵文化財包蔵地「中林遺跡」に近接する。事業者から依頼を受け、試掘調査を実施した。

対象地の中央付近では低地性のシルトと砂層の互層堆積が確認され、低湿地であったと考えられる。５～８トレンチでは、黒褐色遺物混じりシルト層を基盤としたピット等の遺構が複数確認されている。遺構埋土は灰白色系シルトが主体である。遺物には中世に属すると考えられる土師器片が散見されることから、中世の遺構が面的に広がっていると考えられる。また、基盤層中にも、時期不明であるが土師器細片を含む。

第 56 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

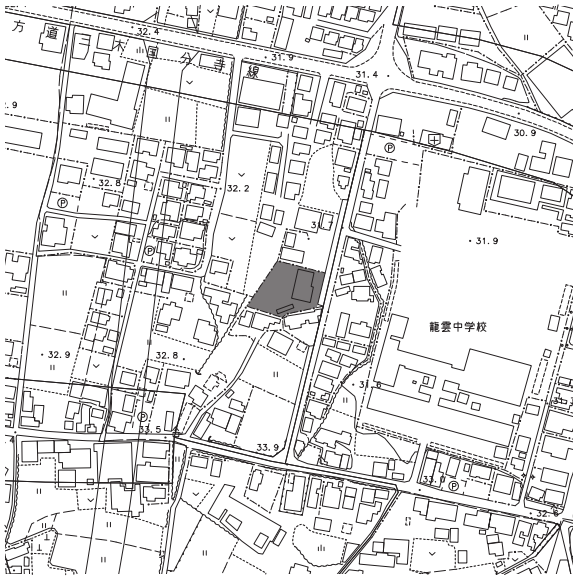
対象地の一部で埋蔵文化財の包蔵状況を確認し、新規に埋蔵文化財包蔵地「竹部遺跡」として登録された。今後の開発に際しては、適切な保護措置が必要である。（高上）

# 39　東原遺跡（ひがしはらいせき）

**1 所　在　地**　高松市出作町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 10 月 18 日
**3 調査担当者**　梶原　慎司
**4 調査の原因**　適応指導教室の移転・拡充
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」内に位置する。事業者からの依頼を受け、確認調査を実施した。調査では３本のトレンチを設定した。

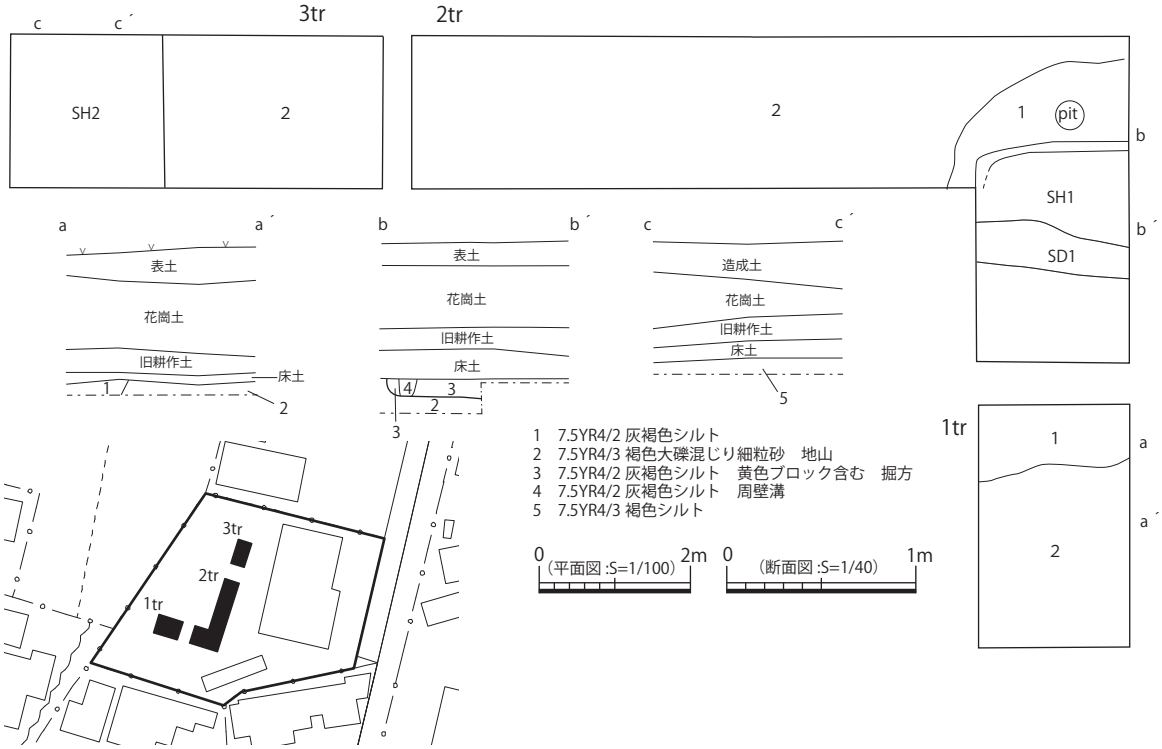
対象地の基本層序は、Ⅰ層が表土、Ⅱ層が花崗土、Ⅲ層が旧耕作土、Ⅳ層が床土、Ⅴ層が灰褐色シルト、Ⅵ層が褐色細粒砂である。Ⅴ層上面は遺構検出面で、竪穴建物２棟、溝１条を検出した。２トレンチで検出した竪穴建物は、一部断割りを行い層序を確認した。Ⅵ層は無遺物層で、地山と考えられる。竪穴建物は、萩前・一本木遺跡で検出された竪穴建物と同様な方位であることから、古墳時代後期である可能性が高い。




第 57 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

今回の調査によって、対象地において古墳時代の集落遺構を確認した。以上の調査成果から、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」内に位置するものの、時代が旧南海道跡とは異なるため、新規に埋蔵文化財包蔵地「東原遺跡」として登録された。今後の開発に際しては適切な保護措置が必要である。（梶原）



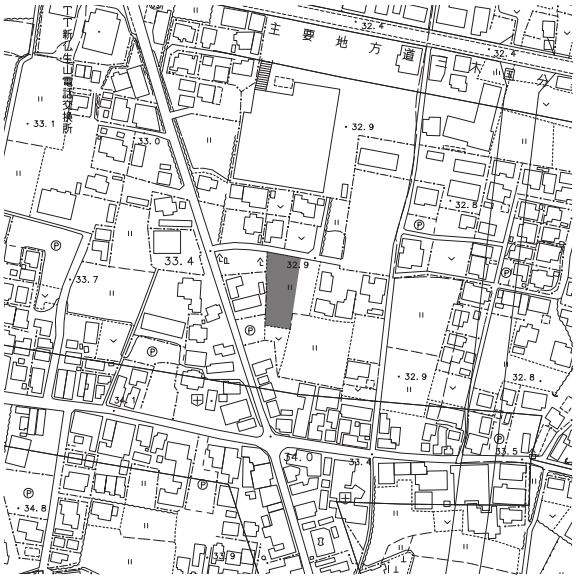

第 58 図　トレンチ配置図・平面図・断面図（S= 1 /100・S= 1 /40）

# 40　横市遺跡（よこいちいせき）

**1 所　在　地**　高松市仏生山町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 10 月 19 日
**3 調査担当者**　梶原　慎司
**4 調査の原因**　集合住宅建設工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「旧南海道跡」に隣接する。事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。調査では２本のトレンチを設定した。

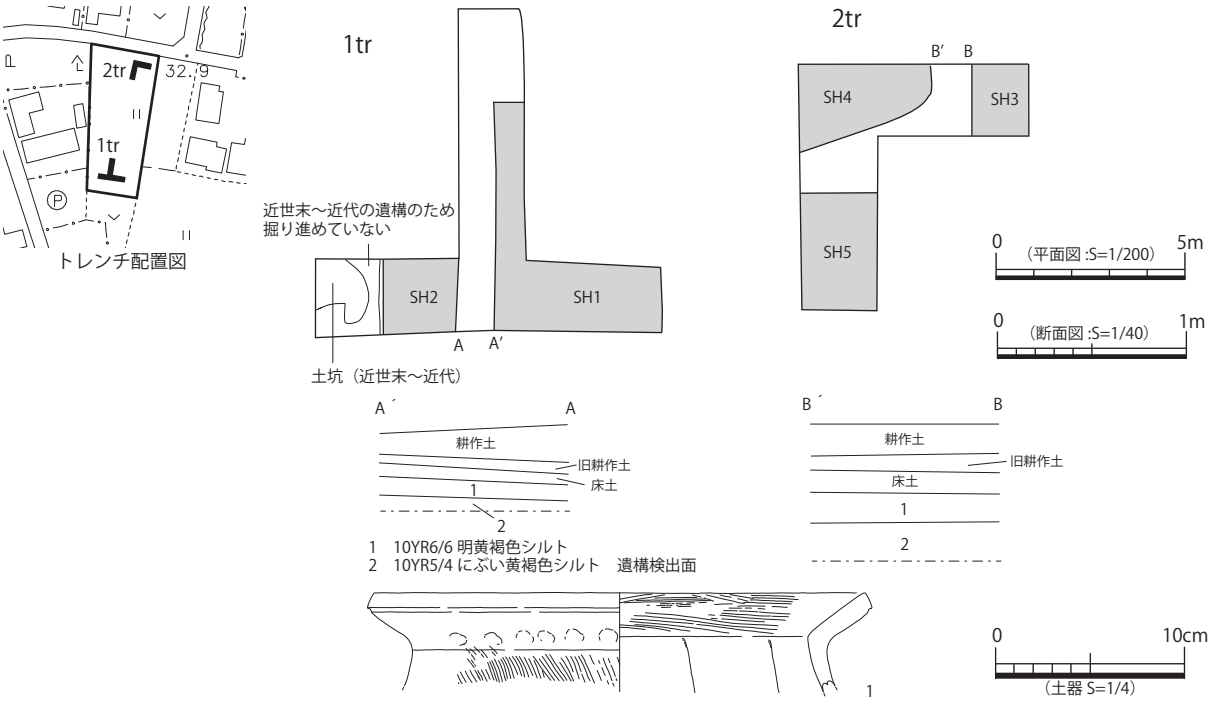
対象地の基本層序は、Ⅰ層が現代耕作土、Ⅱ層が旧耕作土、Ⅲ層が床土、Ⅳ層が明黄褐色シルト、Ⅴ層がにぶい黄褐色シルトである。Ⅳ層からは中世以降の遺物がわずかに出土した。Ⅴ層上面は遺構検出面で、竪穴建物５棟を検出した。竪穴建物は検出した段階で掘削を止めたため深さは不明だが、貼床上層にある埋土が検出されていることから、保存状態は良好であると考えられる。遺物はSH １の貼床上層埋土から出土しており、古墳時代後期のものである。SH ４を除いた竪穴建物は、萩前・一本木遺跡で検出された竪穴建物と同様な方位であることから、古墳時代後期である可能性が高い。SH ４は方位から古代の竪穴建物である可能性が高い。



第 59 図　調査地位置図（S= １/5000）

**6 まとめ**

今回の調査により、対象地において古墳時代後期から古代の遺構を確認した。以上の調査成果から、対象地は新規に埋蔵文化財包蔵地「横市遺跡」として登録された。なお、工事に際し工事立会で保護措置を図った。（梶原）



第 60 図　トレンチ平面図・断面図（S= １/200・S= １/40）・出土遺物実測図（S= １/ ４）

# 41　多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 11 月7日
**3 調査担当者**　梶原　慎司
**4 調査の原因**　分譲住宅・貸店舗用地造成工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥宮尻遺跡」に隣接する。事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。調査では３本のトレンチを設定した。

対象地の基本層序は、Ⅰ層が表土（現代耕作土）、Ⅱ層が床土、Ⅲ層が褐灰色シルト、Ⅳ層が褐灰色細粒砂である。１トレンチの東側では、Ⅳ層が灰白色シルトになる。Ⅲ層は中世の遺物が含まれることから、中世以降に形成されたと考えられる。Ⅳ層は無遺物層で、地山と考えられる。

第 61 図　調査地位置図（S= 1/5000）

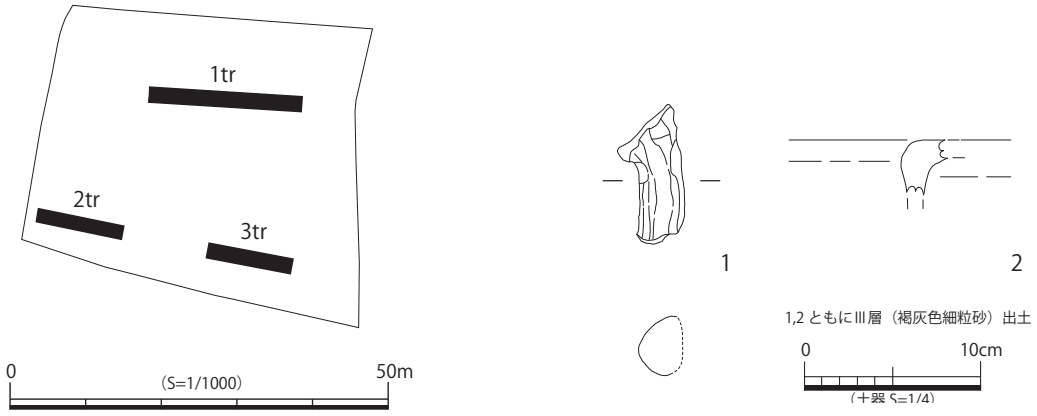
１トレンチ西側と３トレンチではⅢ層の下層に黒褐色シルトがみられ、北側の多肥宮尻遺跡から続く流路（多肥宮尻遺跡Ⅱ区 SR03）の一部であると考えられる。遺構検出段階で掘削を止めて一部断割りを行ったが、詳細な時期が判定できる遺物は出土しなかった。北側の多肥宮尻遺跡の発掘調査（香川県教委 1998『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報　平成９年度』）では、SR03 から出土した遺物は少なく、他の遺構との関係から弥生時代後期後半以降６世紀初頭以前と比定されている。

また、１トレンチで流路の上面で検出した溝は北側の多肥宮尻遺跡から続く溝（多肥宮尻遺跡Ⅱ区 SD05）と考えられる。出土遺物はなく詳細な時期は判定できなかったが、北側の多肥宮尻遺跡の出土遺物から６世紀から７世紀前半であると比定できる。

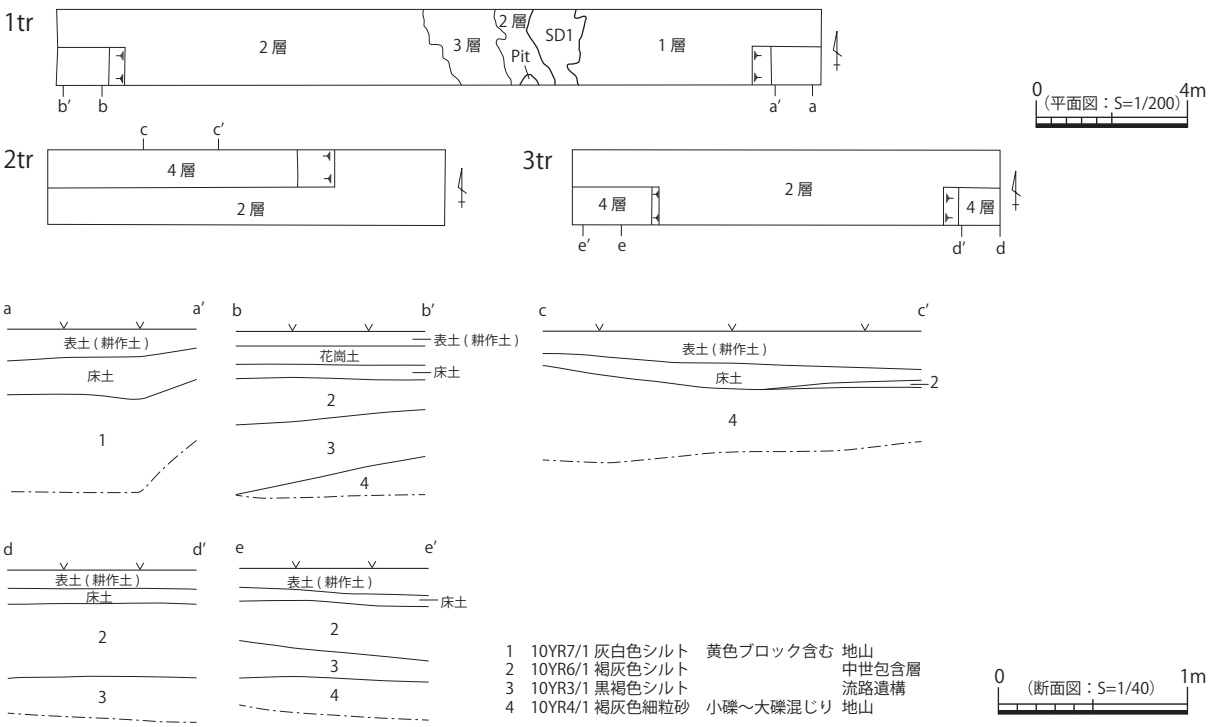
**6 まとめ**

試掘調査の結果、流路や溝を検出した。対象地は微高地から傾斜する谷状の地形に位置すると考えられる。１・３トレンチで確認した流路と溝は、北側の多肥宮尻遺跡から続く遺構であると考えられる。また、対象地全域で検出した褐灰色シルト層は中世の遺物を含み、微高地から傾斜した地形に対して中世以降に堆積・安定化したものと考えられる。

以上の調査成果から、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥宮尻遺跡」の範囲に追加された。なお、工事に際して工事立会で保護措置を図ることとなっている。（梶原）



第 62 図　トレンチ配置図（S= 1/1000）・出土遺物実測図（S= 1/ 4）



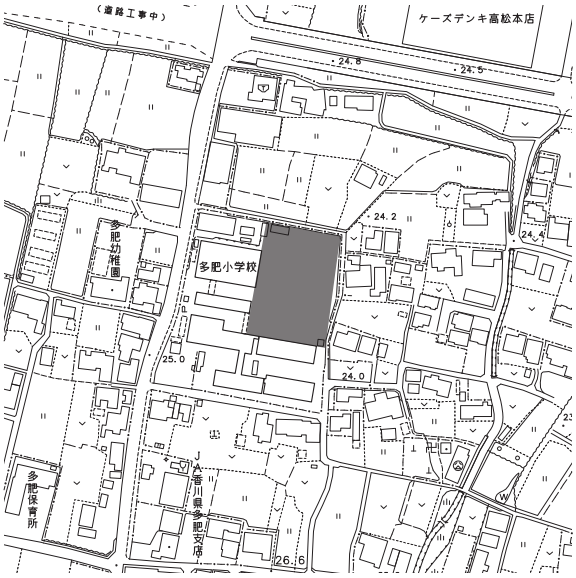

第 63 図　トレンチ平面図・断面図（S= 1 /200・S= 1 /40）

## 42　多肥上町出口地区（たひかみまちでぐちちく）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年 11 月 14 日
**3 調査担当者**　高上　拓
**4 調査の原因**　校舎増築工事
**5 調査の概要**

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「出口遺跡」に近接する。小学校の校舎増築に伴い、試掘調査を実施した。

６本のトレンチを設定したが、すべてのトレンチにおいて、厚く花崗土・造成土が堆積していた。その下層からは灰～黒のシルト層・風化した礫層を確認したが、遺構・遺物は確認できなかった。対象地はかつて木造校舎が建てられていた場所であり、既に遺構面などが削平された可能性も考えられる。




第 64 図　調査地位置図（S= 1 /5000）

**6 まとめ**

以上の調査結果から対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地とは認められない。（高上）

# 43　多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき）

**1 所　在　地**　高松市多肥上町
**2 調 査 期 間**　平成28年11月7・8日
**3 調査担当者**　梶原　慎司
**4 調査の原因**　テニスクラブ用地造成工事
**5 調査の概要**

第65図　調査地位置図（S= 1/5000）

対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥宮尻遺跡」及び「空港跡地遺跡」に隣接する。事業者からの依頼を受け、試掘調査を実施した。調査では３本のトレンチを設定した。

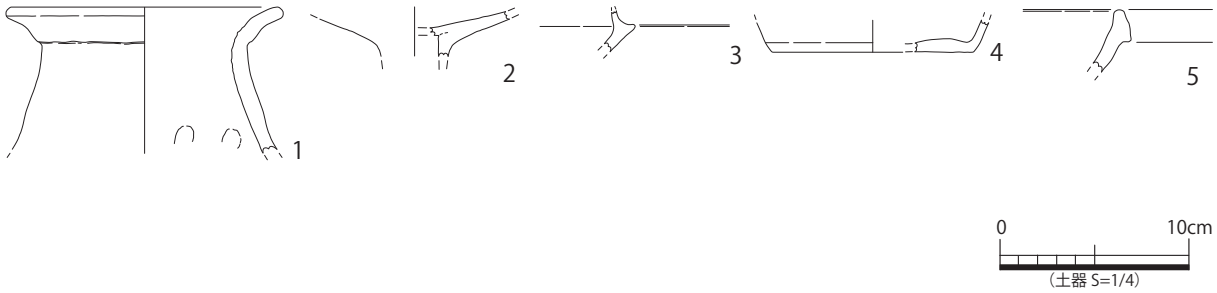
対象地の西側（１・２トレンチ）の基本層序は、Ⅰ層が表土（現代耕作土）・床土、Ⅱ層が褐灰色シルト、Ⅲ層が褐灰色小礫混じり細粒砂である。Ⅱ層は遺構検出面で、１トレンチでは土坑が検出された。Ⅱ層は中世の遺物が含まれることから、遺構は中世以降であると考えられる。Ⅲ層は無遺物層で、地山と考えられる。２トレンチ東側ではⅡ層の下に黒褐色シルトがみられ、北側の多肥宮尻遺跡から続く流路の一部であると考えられる。

対象地の東側（３トレンチ）の基本層序は、Ⅰ層が表土（現代耕作土）・床土、Ⅱ層が灰白色シルト、Ⅲ層が褐灰色シルト、Ⅳ層が褐灰色小礫混じり細粒砂である。Ⅱ層は中世の遺物をわずかに含む。Ⅲ層は遺構検出面で、弥生土器片を大量に含んだ流路又は土坑と考えられる遺構を検出した。北側を一部断割りしたところ、遺構の深さは約0.5mであることを確認した。Ⅳ層は無遺物層で、地山と考えられる。

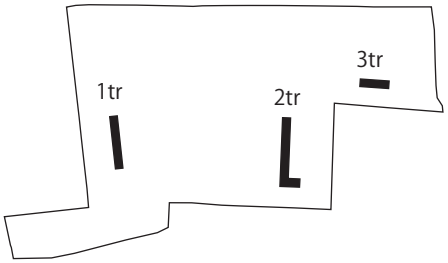
**6 まとめ**

試掘調査の結果、流路や土坑を検出した。対象地の東側は空港跡地遺跡が展開する微高地の縁辺部で、対象地の西側は微高地から傾斜した谷状の地形に位置すると考えられる。２トレンチで確認した黒褐色シルト層は北の多肥宮尻遺跡から続く流路と考えられる。また、対象地西側で検出した褐灰色シルト層は中世の遺物を含み、微高地から傾斜した地形に対して中世以降に堆積・安定化したものと考えられる。

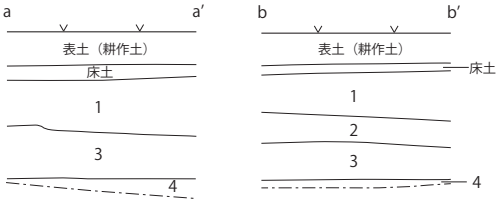
以上の調査成果から、対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地「多肥宮尻遺跡」の範囲に追加された。なお、工事に際して工事立会で保護措置を図ることとなっている。（梶原）



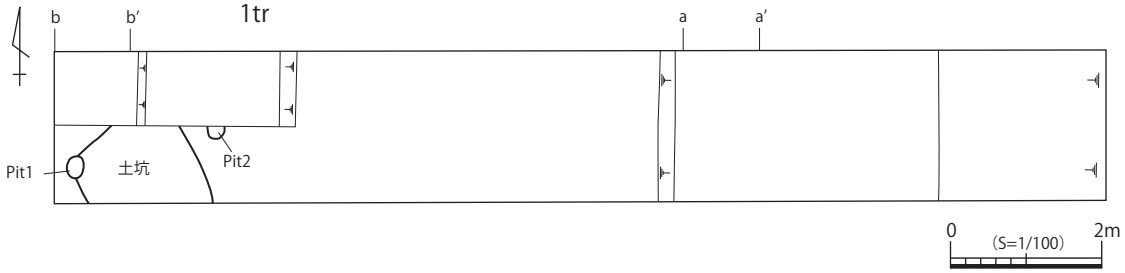
第66図　出土遺物実測図（S= 1/ 4）

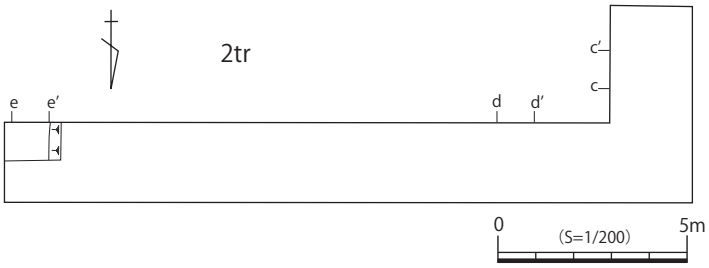


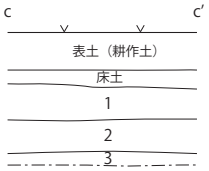

試掘トレンチ配置図（S=1/2000）

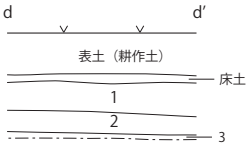


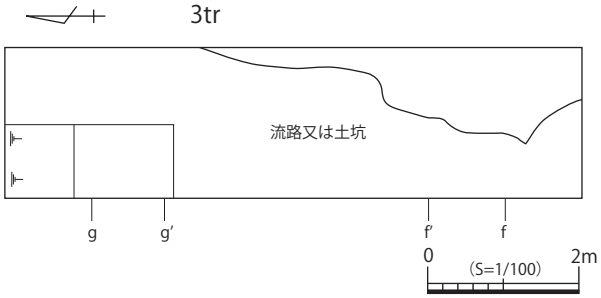

1　10YR7/1 灰白色シルト 茶色ブロック含む
2　10YR6/1 褐灰色シルト 茶色ブロック含む　中世包含層
3　10YR6/1 褐灰色シルト 黄色ブロック含む　中世包含層
4　10YR4/1 褐灰色細粒砂　小礫混じり　地山

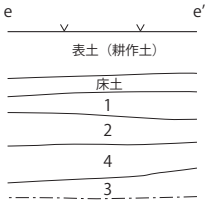


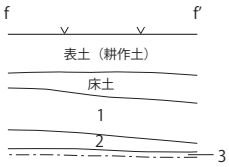



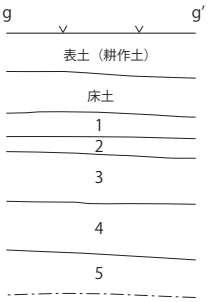




1　10YR6/1 褐灰色シルト 黄色ブロック含む
2　10YR4/1 褐灰色シルト　遺物含む
3　10YR4/1 褐灰色細粒砂　小礫～大礫混じり　地山
4　10YR3/1 黒褐色シルト　流路か




1　10YR7/1 灰白色シルト 黄色ブロック含む
2　10YR7/1 灰白色シルト
3　10YR4/1 褐灰色シルト　遺構埋土
4　10YR4/1 褐灰色シルト 黄色ブロック含む
5　10YR4/1 褐灰色細粒砂　小礫混じり

0　（断面図：S=1/40）　1m

第 67 図　トレンチ平面図・断面図（S= 1 /100・ 1 /200・S= 1 /40）

# 第２章　史跡石清尾山古墳群保存･整備事業(平成28年度)

## 44　稲荷山北端１号墳・稲荷山１号墳

**1 所　在　地**　高松市宮脇町・中野町・室新町
**2 調 査 期 間**　平成 28 年7月 19 日～11 月 30 日
**3 調査担当者**　高上　拓・波多野　篤・梶原　慎司
**4 調査の原因**　重要遺跡確認調査
**5 事業の概要**

高松市では、稲荷山に所在する３基の古墳（稲荷山姫塚古墳・稲荷山北端１号墳・稲荷山１号墳）を国史跡に追加指定することを目的に調査を実施している。平成 24 年度から稲荷山姫塚古墳の調査を開始し、それ以降継続して調査している。今年度は、稲荷山北端１号墳と稲荷山１号墳の発掘調査を実施した。

第 68 図　調査地位置図（S= 1/15000）

**（１）稲荷山北端１号墳**

昨年度の発掘調査で、墳形が双方中円墳であること、南側方丘部前端の位置が確定し、段構造が２段あること、円丘部に３つの段構造があることなどが判明していた。しかし、北側方丘部前端の位置は確定できず、古墳の全長も明らかにできなかった。このため、今年度は北側方丘部前端を確定することと古墳の全長を把握することを目的として、５箇所の調査区を設けて発掘調査を行った。

今年度の主な調査成果は、北側方丘部西側面（７トレンチ）で２段の段構造を確認したこと、その段は塊石と板石を用いて構築されていることが明らかになった点などが挙げられる。一方で、北側方丘部前端は遺存しておらず、段構造は確認できなかった。ただし、墳丘の構築材と見られる大ぶりな塊石が分布する範囲を把握し、その北側に地形の変換点が認められたことから、北側方丘部前端の位置を複数の根拠を持って推定することが可能となった。以上の調査成果を踏まえて、稲荷山北端１号墳全体の調査成果をまとめると、要点は以下のとおりである。

１）円丘部が丘陵頂部の先端、南側方丘部が南に向けて緩やかに高くなる尾根頂部のやや西より、北側方丘部は丘陵頂部の先端から北へ向けて下る尾根線上のほぼ中心に立地する。

２）いずれの地点も石積みにより墳丘を構築する積石塚古墳で、墳形は双方中円墳である。双方の方丘部とも中ほどで外側に開く撥型を呈する。墳丘の主軸は、南側方丘部・円丘部・北側方丘部の中心及び中軸は同一線上を通過せず、両方丘部は対称とはならない。

３）円丘部の直径は約 28 m（推定値）。墳丘の全長は残存値で約 64 m、推定値で約 69 mである。

４）円丘部で少なくとも３段、南･北側方丘部で２段の段構造が構築される。墳端での構築順序は、墳丘内側から外側に向けて石積みを前面に加えるように施工する。石積みの基本構造は、墳丘の構築材（骨材）となる大ぶりな塊石を配置し、その前面に板石・塊石などを同一の段に用いて構築する。なお、１トレンチの円丘部中段及び下段のくびれ部（１トレンチ）、４・７トレンチ付近の北側方丘部西側面の上段石列の屈曲点付近、以上の箇所で板石積みが部分的に認められることから、特定の部位に板石積みを施工していた可能性がある。

５）土器小片が 10 ～ 20 片出土した程度で、遺物から古墳の築造時期の推定は困難である。ただし、丘陵の先端に位置すること（鶴尾神社４号墳・石清尾山９号墳）、低平で立体感が無く撥型に開く方丘部であること（鶴尾神社４号墳・石清尾山９号墳）、板石積みを部分的に施工すること（鶴尾神社４号墳）、以上を根拠として、古墳時代前期前半に位置づける要素を複数持つ古墳と考えられる。

写真 33　稲荷山北端１号墳　６トレンチ（西から）

写真 34　稲荷山北端１号墳　７トレンチ（南東から）

以上のとおり、平成 26 年度から開始した本古墳の一連の調査によって、史跡追加指定に向けて把握すべき古墳の墳形・規模・構造に関する情報を得られたと考えられる。（波多野）

**（２）稲荷山１号墳**

昨年度の測量調査で、遺存する石列等の状況から南側に前方部、北側に後円部が存在すると推定した。しかしながら、北側にも地形の高まりが存在し石材の分布が認められたため、測量調査のみで墳形･規模の確定には至らなかった。以上の経緯から、墳形と規模の確認を主な目的として､今年度に発掘調査を行うこととなった。

今年度は、北側と南側の墳端を確定するために３箇所の調査区を設けて発掘調査を行った。その結果、北側と南側の墳端を確定することができた。今年度の発掘調査と昨年度の測量調査を合わせた成果を踏まえて稲荷山１号墳全体の調査成果をまとめると、要点は以下の５点となる。

写真 35　稲荷山１号墳　２トレンチ（北から）

１）丘陵の尾根線上に立地し、前方部が南の室山に向けて緩やかに高くなる場所に立地する。
２）いずれの地点も石積みにより墳丘を構築する積石塚古墳で、墳形は前方後円墳であり、前方部は低平である。
３）墳丘の全長は約 38 m（推定値）である。後円部の直径は約 21 m（推定値)。
４）墳端は、石材を岩盤の上に直接積んで構築する。石材は大ぶりな塊石を使用し、少なくとも後円部北端と前方部南端では板石積みの垂直壁は存在しない。また、墳端の外側の岩盤は加工された可能性がある。
５）後円部北端の調査区で土器片が約 150 点出土した。その多くは壺形埴輪で、古墳築造時期のものと考えられる。詳細な時期比定は今後の課題だが、出土遺物に壺形埴輪を持ち定型化した円筒埴輪を有さないこと、前方部が低平であること、横長に石材を用いて墳端を形成すること、以上を根拠として、古墳時代前期前半に位置づけられる要素を複数もつ古墳と考えられる。

以上のように、平成 27 年度から開始した本古墳の一連の調査によって、史跡追加指定に向けて把握すべき古墳の墳形・規模・構造に関する情報を得られたと考えられる。（梶原）

**6 まとめ**

今年度に実施した２基の古墳の調査では、いずれも史跡追加指定に必要な知見が得られたと考えられる。従って、当初目標としていた３基の古墳について、史跡追加指定に伴う調査は 28 年度の調査を持って完了したと考えている。次年度は、３基の古墳の調査成果をまとめた報告書を刊行し、国史跡追加指定の意見具申を行う計画である。（波多野）

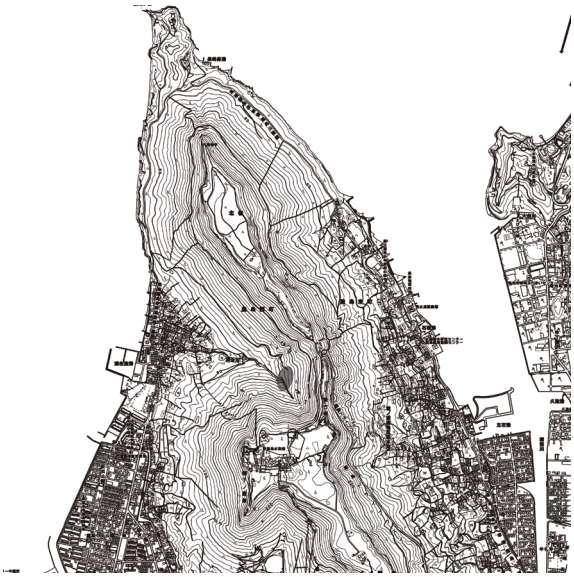
# 第３章　史跡天然記念物屋島基礎調査事業(平成27年度)

## 45　史跡天然記念物屋島（しせきてんねんきねんぶつやしま）

**1 所　在　地**　高松市屋島西町 26 林班ろ７小班
**2 調 査 期 間**　平成 27 年 12 月1日～
　　平成 28 年3月 29 日
**3 調査担当者**　渡邊　誠・杉原　賢治
**4 調査の原因**　内容確認調査
**5 調査の概要**

**（１）はじめに**

平成 21 年度から実施している屋嶋城跡浦生地区の城壁遺構の確認調査である。平成 26 年度調査によって城壁が雉城と呼ばれている張出し部上面に石列を確認したことから、今回の調査は雉城の上面を中心に２箇所にトレンチを設定して調査を実施した。

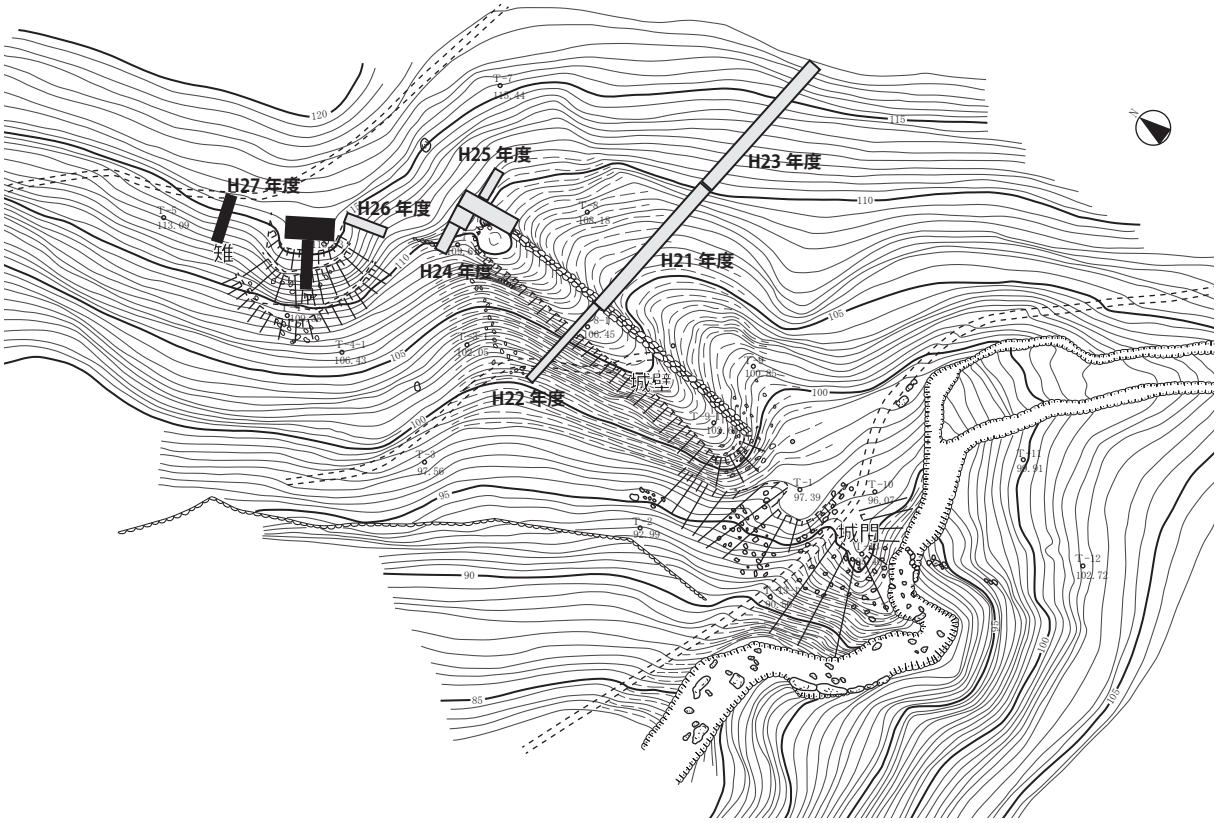


第 69 図　調査地位置図（S= １/50000）

**（２）調査成果**

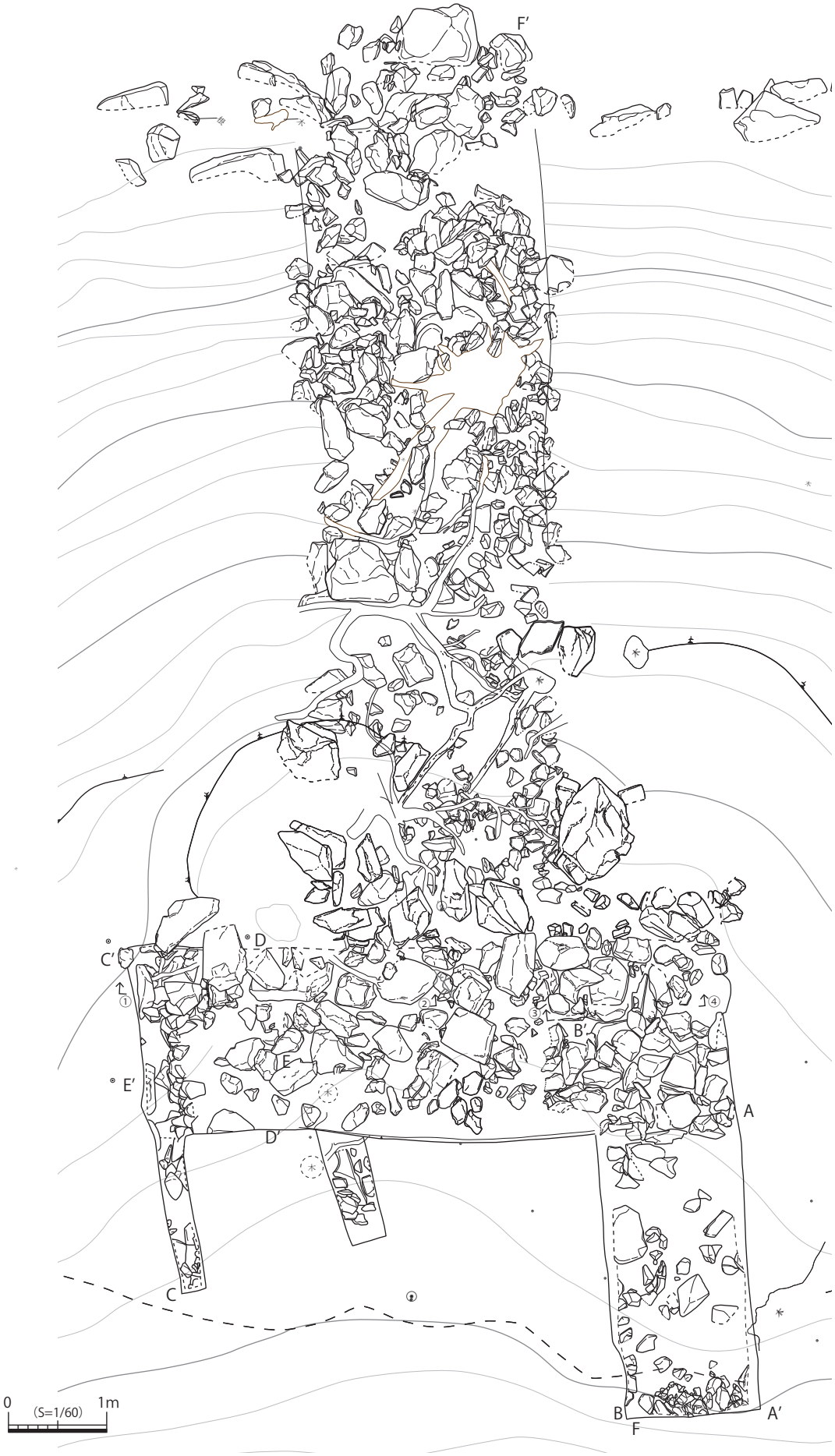
**a　基本層序**

第１トレンチは表土、崩積土が石積みの崩落石を覆っていた（第 73 図）。この崩積土と考えられる第２層が被覆するまで、崩落と山側からの土砂によって次第に埋まっていったものと考えられる。第３トレンチは、地山起源の崩積土で覆われていた。一部断割りを行ったが、古い段階の崩積土によって基盤が形成されており、これは屋島の山麓斜面の基盤を形成している崩積土と考えられる。

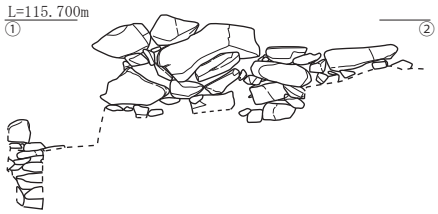



第 70 図　調査位置図（S= １/1000）

第 71 図　トレンチ配置図（S= 1/100）

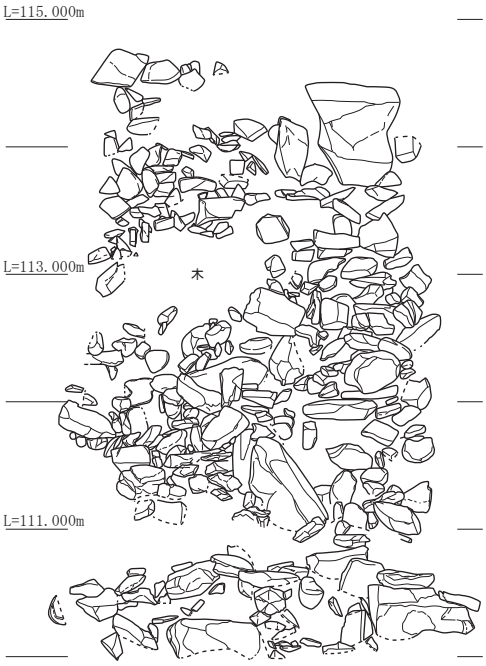



第 72 図　第１・２トレンチ平面図（S= 1 /60）

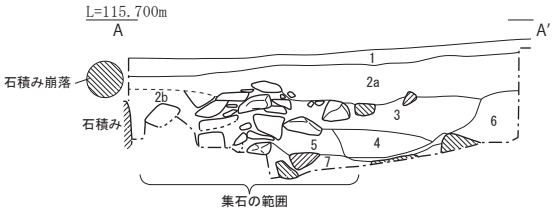



a　城内側石積み南端部（S=１／６０）

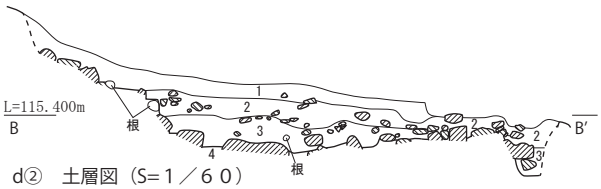
b　城内側石積み北端部（S=１／６０）



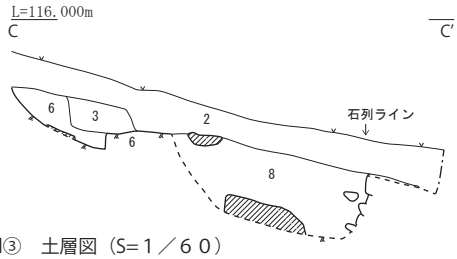

c　雉城城外側石積み（第２トレンチ：S=１／６０）




d①　土層図（S=１／６０）

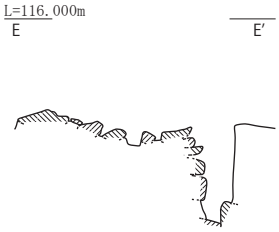



d②　土層図（S=１／６０）



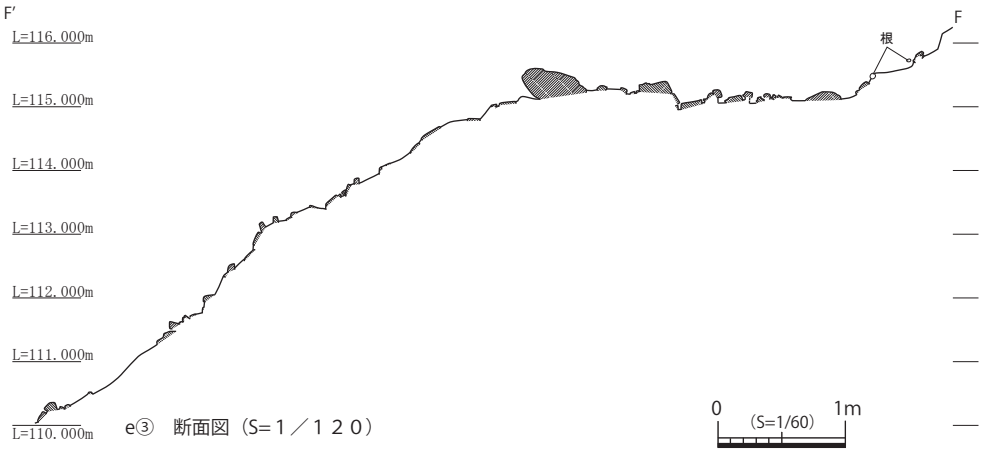

d③　土層図（S=１／６０）

e①　断面図（S=１／６０）



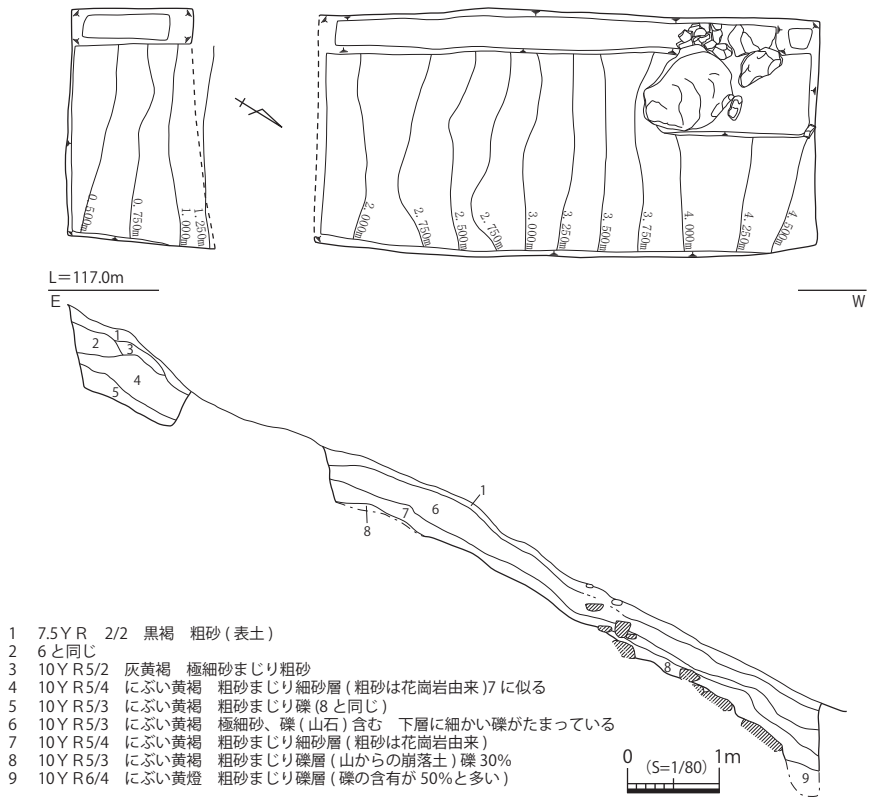

e②　断面図（S=１／６０）

1　7.5YR3/1 黒褐　礫（安山岩）混じり粗砂（表土）
2a　10YR6/3 にぶい黄橙　礫（風化した安山岩 5%）混じりシルトに近い細砂（やや粘質）
山からの流入土か。あまり締まっていない土
2b　2a が集石の間に入り混んだ土であり、土質ともに同じで小礫が少ない
3　10YR5/3 にぶい黄褐　径が 20 ㎝～ 30 ㎝の礫（風化した安山岩）混じり細砂混じりシルト
やや上位の土よりも締まっている（礫も層状になっている）遺構面？
4　10YR5/2 灰黄褐　礫層（中に 10YR5/2 灰黄褐シルトが少量混ざる）
上位の層よりも礫含まれる率が（50%程度）多くなっている
5　10YR4/3 にぶい黄褐 φ2 ～ 5 ㎜の礫を少量に含む　粗砂混じりシルト
炭含む（大きな礫がない）遺構面？
6　10YR5/3 にぶい黄褐　礫を多く含む（50%程度）粗砂混じりシルト
3 よりは締まっていない土
7　10YR6/6 明黄褐の礫を多く含む　礫層（少量だが 10YR5/3 にぶい黄褐シルトを含む）
8　10YR4/3 にぶい黄褐シルト混じり細砂（花崗岩の粗砂混じり）
8 の反対側は石積みになっている




e③　断面図（S=１／１２０）

第 73 図　第１・２トレンチ立面図土層断面図（S= 1/60）




第 74 図　第３トレンチ平面図・断面図（S= １/80）

### b　遺構の概要

第１トレンチは、雉城の上部平坦面から西側の斜面部に設置した。調査の結果、石列が予想された部分に石積み状遺構を確認することができた。この石列は高さ 50 ～ 80cm に及ぶ石積み遺構で､直方体を呈する石材（30 ～ 50cm）を使用している。石積みの城内側（山側）では､人頭大（10 ～ 30cm 程度）の石材を丁寧に集積した状況を確認した。この集石は先の石積みと山側の斜面との間に形成される断面三角形状の空間を埋めている。トレンチ南端の断割り調査の結果、他の古代山城同様に、地山の直上で炭化物を確認することができ、築城時の野焼きの痕跡と考えられる。それゆえ、築城当初に集積したものと想定される。この集石は、斜面部に位置していることから、通路状の平坦面の確保や排水機能等を考慮して敷設された可能性が想定でき、鬼ノ城の角楼背面において確認されている階段状を呈する石積みの遺構に類似した機能であった可能性もある。

雉城西側斜面部は石積状を呈する状況を確認していたため、第２トレンチを設定し、外面の状況を確認したが、盛土内に石材が多量に含まれており、これらが部分的に石積み状を呈して確認されたと想定されるに至った。大型の石材が斜面部に転石として点在しているため、当初は外面には石積みを行っていたものと推測されるが、基本的には崩落していると判断した。

第３トレンチは、雉城の北側に続く斜面に設置し、城壁がさらに北に延びるかどうかを確認した。調査の結果、城壁の存在は確認することはできなかった。

### c　出土遺物の概要

集石の中から土師質土器の小片が出土したが、時期決定ができる遺物は出土しなかった。

## 6 まとめ

今回の調査によって、雉城の城内側に面をもつ石積み遺構があり、その前面と山の斜面を埋めるように集石がなされていること、雉城外面の石積みは大規模に崩落していること、雉城の北側斜面には城壁は延伸しない可能性が高いことを確認することができた。（渡邊）

写真 36　石積み遺構①（北から）

写真 37　石積み遺構②（南側）

写真 38　石積み遺構②（北側　東から）

写真 39　石積み遺構②（北側　南から）

写真 40　石積み遺構②（北側　北から）

写真 41　石積み遺構北壁土層（南から）

写真 42　石積み遺構北壁土層（南から）

写真 43　第３トレンチ全景（西から）

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | たかまつしないいせきはっくつちょうさがいほう |
| 書名 | 高松市内遺跡発掘調査概報 |
| 副書名 | 平成 28 年度高松市内遺跡発掘調査事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 |
| シリーズ名 | 高松市埋蔵文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第 179 集 |
| 編著者名 | 大嶋 和則・渡邊 誠・高上 拓・舩築 紀子・波多野 篤（編）・香川 将慶・梶原 慎司・杉原 賢治・難波 洋三 |
| 編集機関 | 高松市教育委員会 |
| 所在地 | 〒 760-8571　香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号　TEL .087(839)2660 |
| 発行年月日 | 平成 29 年 3 月 24 日 |

| ふりがな<br>所収調査 | 調査地 | コード<br>市町村 | <br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| おかやかたあと<br>岡館跡 | 香南町岡 | 37201 | | 34° 13′ 51″ | 134° 1′ 23″ | H27.12.2 | 51㎡ | 太陽光発電パネル設置工事 |
| きたちょうひらつかちく<br>木太町平塚地区 | 木太町 | 37201 | | 34° 18′ 31″ | 134° 4′ 1″ | H27.12.7 ～ 12.8 | 167㎡ | 老人福祉施設兼保育園建設工事 |
| にしやまさきちょういでうえちく<br>西山崎町井手上地区 | 西山崎町 | 37201 | | 34° 16′ 32″ | 133° 59′ 29″ | H27.12.26 | 10㎡ | 市道改良工事 |
| さくらまちいせき<br>桜町遺跡 | 桜町二丁目 | 37201 | | 34° 19′ 40″ | 134° 3′ 9″ | H27.12.21～ 12.28<br>H28.10.22 | 119㎡ | 学校改築工事 |
| たかまつじょうあと<br>高松城跡<br>（ことぶきちょういちちょうめちく<br>寿町一丁目地区） | 寿町一丁目 | 37201 | | 34° 20′ 57″ | 134° 2′ 57″ | H28.1.6 | 50㎡ | 事務所ビル解体工事 |
| はやしちょうげしょちく<br>林町下所地区 | 林町 | 37201 | | 34° 18′ 28″ | 134° 4′ 30″ | H28.1.7 | 36.2㎡ | 宅地造成工事 |
| ろくじょうげしょいせき<br>六条下所遺跡 | 六条町 | 37201 | | 34° 17′ 44″ | 134° 4′ 43″ | H28.1.20 ～ 1.22<br>H28.6.27 ～ 7.2 | 126㎡ | 給食センター建設事業 |
| にしくぼいせき<br>西久保遺跡 | 多肥上町・出作町 | 37201 | | 34° 17′ 28″ | 134° 2′ 47″ | H28.1.13 ～ 1.16 | 227㎡ | 分譲住宅造成工事 |
| ろくじょうかみあおきいせき<br>六条上青木遺跡 | 六条町 | 37201 | | 34° 17′ 38″ | 134° 4′ 47″ | H28.1.18 ～ 1.20 | 315.2㎡ | 保育所建設事業 |
| みねやまちょうちく<br>峰山町地区 | 峰山町 | 37201 | | 34° 19′ 55″ | 134° 1′ 34″ | H28.1.26<br>H28.2.3 ～ 2.4 | 17.4㎡ | 不動産売買 |
| きたちょうひらつかちく<br>木太町平塚地区 | 木太町 | 37201 | | 34° 18′ 37″ | 134° 3′ 52″ | H28.2.8 | 30㎡ | 共同住宅建設工事 |
| かわしまほんまちいせき<br>川島本町遺跡 | 川島本町 | 37201 | | 34° 16′ 23″ | 134° 4′ 59″ | H28.2.15 ～ 2.17 | 240㎡ | 葬祭場建設工事 |
| たひらつかいせき<br>多肥平塚遺跡 | 多肥上町 | 37201 | | 34° 17′ 41″ | 134° 3′ 2″ | H28.3.22 ～ 3.24 | 90㎡ | 市道改良工事 |
| にししたいせき<br>西下遺跡 | 十川西町 | 37201 | | 34° 16′ 32″ | 134° 6′ 10″ | H28.3.21 | 40㎡ | 小学校運動場整備工事 |
| てんま　みやにしいせき<br>天満・宮西遺跡 | 松縄町 | 37201 | | 34° 19′ 16″ | 134° 3′ 47″ | H28.3.23 | 85㎡ | 事務所建設工事 |
| じょうりあと<br>条里跡 | 香南町横井 | 37201 | | 34° 14′ 35″ | 134° 0′ 39″ | H28.3.29 | 20㎡ | 住宅新築工事 |
| はやしむねたかいせき<br>林宗高遺跡 | 林町 | 37201 | | 34° 18′ 3″ | 134° 4′ 17″ | H28.4.5<br>H28.5.2 | 40㎡<br>30㎡ | 小学校新校舎増築・校庭拡張工事 |
| やしまにしまちたにひがしちく<br>屋島西町谷東地区 | 屋島西町 | 37201 | | 34° 20′ 46″ | 134° 5′ 46″ | H28.4.18 ～ 4.19 | 72㎡ | 分譲住宅造成工事 |
| おおたじょうあと<br>太田城跡 | 太田上町 | 37201 | | 34° 18′ 18″ | 134° 2′ 38″ | H28.4.20 | 17㎡ | 住宅建設工事 |
| あめやまみなみいせき<br>雨山南遺跡 | 三谷町 | 37201 | | 34° 16′ 19″ | 134° 3′ 25″ | H28.4.25 | 27㎡ | 住宅建設工事 |
| おりいしいせき<br>居石遺跡 | 伏石町 | 37201 | | 34° 18′ 28″ | 134° 3′ 21″ | H28.4.22 | 20㎡ | 宅地造成工事 |
| さとういせき<br>佐藤遺跡 | 鬼無町佐藤 | 37201 | | 34° 19′ 41″ | 133° 59′ 27″ | H28.5.12 | 30㎡ | 宅地造成工事 |

| | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 佐料遺跡（さりょういせき） | 鬼無町佐料 | 37201 | | 34° 20′ 6″ | 133° 59′ 41″ | H28.6.21 | 20.7㎡ | 分譲住宅及び駐車場造成工事 |
| 条里跡（じょうりあと） | 香南町横井 | 37201 | | 34° 14′ 52″ | 134° 0′ 24″ | H28.6.18 | 9㎡ | 個人住宅建設工事 |
| 林・坊城遺跡（はやし　ぼうじろいせき） | 林町 | 37201 | | 34° 18′ 16″ | 134° 4′ 41″ | H28.8.1 ～ 8.2 | 174㎡ | アパート建設工事 |
| 川島郷遺跡（かわしまごういせき） | 川島東町 | 37201 | | 34° 16′ 36″ | 134° 5′ 30″ | H28.7.16 | 24㎡ | こども園整備事業 |
| 六条上青木遺跡（ろくじょうかみあおきいせき） | 六条町 | 37201 | | 34° 17′ 37″ | 134° 4′ 49″ | H28.7.22 ～ 7.25 | 114㎡ | 宅地造成工事 |
| 井手上中所遺跡（いでうえちゅうしょいせき） | 多肥上町 | 37201 | | 34° 17′ 21″ | 134° 2′ 54″ | H28.7.25 ～ 7.26 | 95.3㎡ | 宅地造成工事 |
| 野郷遺跡（のごういせき） | 多肥上町 | 37201 | | 34° 17′ 19″ | 134° 3′ 22″ | H28.7.27 | 100.5㎡ | 宅地造成工事 |
| 条里跡（じょうりあと） | 香南町吉光 | 37201 | | 34° 15′ 10″ | 134° 0′ 50″ | H28.8.3 | 28㎡ | 個人住宅建設工事 |
| 萩前・一本木遺跡（はぎのまえ　いっぽんぎいせき） | 仏生山町 | 37201 | | 34° 17′ 1″ | 134° 2′ 26″ | H28.8.22 | 28㎡ | 店舗建設工事 |
| 三谷石舟古墳（みたにいしふねこふん） | 三谷町 | 37201 | | 34° 16′ 10″ | 134° 4′ 30″ | H28.8.16 ～ 9.1 | 40㎡ | 重要遺跡確認調査 |
| 川部町臼井地区（かわなべちょううすいちく） | 川部町 | 37201 | | 34° 16′ 8″ | 134° 0′ 35″ | H28.9.24 | 80㎡ | コミュニティセンター・消防屯所改築工事 |
| 十川東町佐古地区（そがわひがしまちさこちく） | 十川東町佐古 | 37201 | | 34° 16′ 23″ | 134° 6′ 29″ | H28.9.27 | 48.5㎡ | 宅地造成工事 |
| 林町青塚地区（はやしちょうあおつかちく） | 林町 | 37201 | | 34° 18′ 6″ | 134° 4′ 30″ | H28.10.16 | 6㎡ | こども園整備事業 |
| 条里跡（じょうりあと） | 香南町由佐 | 37201 | | 34° 14′ 10″ | 134° 1′ 14″ | H28.10.17 | 5㎡ | 住宅建設工事 |
| 由良南原遺跡（ゆらなんばらいせき） | 由良町 | 37201 | | 34° 16′ 54″ | 134° 5′ 12″ | H28.10.17 | 25㎡ | 倉庫新築工事 |
| 竹部遺跡（たけべいせき） | 上林町竹部 | 37201 | | 34° 17′ 31″ | 134° 4′ 31″ | H28.10.21 ～ 10.24 | 90㎡ | 保育所建設工事 |
| 東原遺跡（ひがしはらいせき） | 出作町 | 37201 | | 34° 16′ 59″ | 134° 2′ 59″ | H28.10.18 | 40㎡ | 適応指導教室の移転・拡充 |
| 横市遺跡（よこいちいせき） | 仏生山町 | 37201 | | 34° 17′ 0″ | 134° 2′ 49″ | H28.10.19 | 53㎡ | 集合住宅建設工事 |
| 多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき） | 多肥上町 | 37201 | | 34° 17′ 34″ | 134° 3′ 36″ | H28.11.7 | 84㎡ | 分譲住宅・貸店舗用地造成工事 |
| 多肥上町出口地区（たひかみまちでぐちちく） | 多肥上町 | 37201 | | 34° 17′ 33″ | 134° 3′ 11″ | H28.11.14 | 25㎡ | 校舎増築工事 |
| 多肥宮尻遺跡（たひみやじりいせき） | 多肥上町 | 37201 | | 34° 17′ 33″ | 134° 3′ 38″ | H28.11.7 ～ 11.8 | 85㎡ | テニスクラブ用地造成工事 |
| 稲荷山北端１号墳（いなりやまほくたんごうふん）・稲荷山１号墳（いなりやまごうふん） | 宮脇町<br>中野町<br>室新町 | 37201 | | 34° 19′ 54″<br>34° 19′ 40″ | 134° 2′ 22″<br>134° 2′ 15″ | H28.7.19 ～ 11.30 | 104㎡ | 重要遺跡確認調査 |
| 史跡天然記念物屋島（しせきてんねんきねんぶつやしま） | 屋島西町26林班ろ７小班 | 37201 | | 34° 21'44″ | 134° 6′ 6″ | H27.12.1 ～ H28.3.29 | 100㎡ | 内容確認調査 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 |
|---|---|---|---|---|
| 岡館跡 | 城館 | 中世 | ピット・溝など | 土師器・陶器 |
| 木太町平塚地区 | — | — | — | 土器 |
| 西山崎町井手上地区 | — | — | — | — |
| 桜町遺跡 | — | 弥生時代・江戸時代 | 溝・土坑 | 弥生土器片・土師器片・陶磁器片・瓦ほか |
| 高松城跡（寿町一丁目地区） | 城館 | 中世～近世・近代 | 土坑 | 土師器片・瓦片 |
| 林町下所地区 | — | — | — | — |
| 六条下所遺跡 | — | — | 溝・土坑・ピット・流路 | 弥生土器片・土師器片・サヌカイト剝片・陶器ほか |
| 西久保遺跡 | 集落 | 古墳時代 | 落ち込み・土坑・ピット・溝・性格不明遺構・自然流路 | 土師器 |
| 六条上青木遺跡 | 生産域 | 古墳時代・中世 | 溝・土坑・ピットなど | 須恵器・土師器 |
| 峰山町地区 | — | — | — | 銅製品 |
| 木太町平塚地区 | — | — | — | — |
| 川島本町遺跡 | 集落 | 縄文時代～中世 | 溝・ピット・土坑・性格不明遺構・流路 | 石器・土器・瓦 |
| 多肥平塚遺跡 | 集落 | 中世 | 溝・ピット | 須恵器片・土師器片 |
| 西下遺跡 | 集落 | 古代 | 性格不明遺構 | 須恵器片・土師器片 |
| 天満・宮西遺跡 | 集落 | 弥生時代・中世 | 溝・性格不明遺構・流路 | 銅鐸片・弥生土器片・土師器片 |
| 条里跡 | 条里 | 古代以前 | 性格不明遺構 | 須恵器片 |
| 林宗高遺跡 | 集落 | 弥生時代・中世 | 落ち込み | 須恵器片・土師器片 |
| 屋島西町谷東地区 | — | — | — | 須恵器片・土師器片・白磁 |
| 太田城跡 | 城館 | 中世 | 落ち込み？ | — |
| 雨山南遺跡 | — | — | — | — |
| 居石遺跡 | 集落 | 古墳時代 | 旧河道 | 土師器片 |
| 佐藤遺跡 | 集落 | 弥生時代・古代・中世 | 溝・土坑・柱穴等 | 弥生土器・土師器片・須恵器片 |
| 佐料遺跡 | 集落 | 弥生時代 | 溝・性格不明遺構・遺物包含層 | 弥生土器 |
| 条里跡 | 条里 | — | — | — |
| 林・坊城遺跡 | 集落 | 不明 | 土坑・溝 | — |
| 川島郷遺跡 | 集落 | 弥生時代・中世 | 溝・土坑・流路 | 弥生土器片・土師器片・瓦質土器片・磁器片 |
| 六条上青木遺跡 | 生産域 | 古墳時代・中世 | 溝・土坑・ピットなど | 須恵器片 |
| 井手上中所遺跡 | 集落 | 古墳時代 | 竪穴建物・土坑・溝状遺構など | 土師器片 |
| 野郷遺跡 | 集落 | 古墳時代 | 竪穴建物・溝・土坑・柱穴 | 須恵器片・土師器片 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 条里跡 | 条里 | — | 落ち込み状の遺構 | — |
| 萩前・一本木遺跡 | 集落 | 古墳時代～古代 | 溝・土坑・竪穴建物 | 須恵器片・土師器片 |
| 三谷石舟古墳 | 古墳 | 古墳時代 | 刳抜式石棺 | 土師器片・鉄鏃 |
| 川部町臼井地区 | — | — | — | 土師器片・陶器片 |
| 十川東町佐古地区 | — | — | — | — |
| 林町青塚地区 | — | — | — | — |
| 条里跡 | 条里 | — | — | — |
| 由良南原遺跡 | 集落 | 中世 | 遺物包含層 | 須恵器片・土師器片 |
| 竹部遺跡 | 集落 | 中世 | 柱穴・土坑・溝 | 土師器片 |
| 東原遺跡 | 集落 | 古墳時代 | 竪穴建物・溝 | 須恵器片・土師器片 |
| 横市遺跡 | 集落 | 古墳時代 | 竪穴建物・土坑 | 須恵器片・土師器片・陶器片 |
| 多肥宮尻遺跡 | 集落 | 弥生時代・中世 | 溝・流路 | 弥生土器片・土師器片・須恵器片 |
| 多肥上町出口地区 | — | — | — | — |
| 多肥宮尻遺跡 | 集落 | 弥生時代～古墳時代・中世 | 流路・土坑 | 弥生土器片・須恵器片・土師器片 |
| 稲荷山北端 1 号墳<br>稲荷山 1 号墳 | 古墳 | 古墳時代 | 古墳 | 弥生土器片・土師器片・埴輪片 |
| 史跡天然記念物屋島 | 城館 | 古代 | 雉城の城内側に面をもつ石積み遺構 | 土師器片 |

高松市埋蔵文化財調査報告第 179 集

# 高松市内遺跡発掘調査概報

－平成 28 年度国庫補助事業－

平成 29 年3月 24 日　発行

編　集 / 発　行　高松市教育委員会
高松市番町一丁目 8 番 15 号

印　刷　有限会社 中央ファイリング